

5
1

過熱機關車ノ形式撰定ニ關スル調査

鐵道院業務調査會議

過熱機關車ノ形式撰定ニ關スル調査

我國有鐵道ノ有スル機關車現在數ハ二千二百五十輛餘其形式百八十餘種ニシテ同種ノモノ平均僅カニ十二輛ナリ其結果各種ノ流用ヲ困難ニシ且ツ其運轉整理修繕等ニ於テ多大ノ手數ヲ要シ豫備品トシテモ亦多種多數ノ貯藏ヲ要スル等取扱上ノ不便並ニ經濟上ノ不利尠シトセス故ニ將來ノ機關車ニ對シ其形式ニ一定ノ標準ヲ立ツルハ蓋シ目下ノ急務ナリト云フヘシ而シテ其標準トスヘキ形式ハ勿論線路若クハ運輸ノ狀況ニヨリ自ラ其揆ヲ一ニセスト雖モ各種ニ就テ最良ノ設計ヲ得ルニ於テハ僅カニ數種ノ形式ヲ以テ最モ經濟的ニ諸般ノ需用ニ應シ得ヘキハ明ニシテ曩ニ舊官線ニ於テハ單ニB6並ニD9ノ二形式ヲ以テ殆ント總テノ需要ヲ充サントセルカ如ク現ニB6形約五百輛D9形約百四十輛ノ多數ヲ存シ目下尙ホ同線區内各方面ニ使用セラレテ比較的良成績ヲ示セリ然レトモ之等ノ形式ハ既ニ今日ニ於テ幹線ニ於ケル大輸送ノ爲メニハ稍牽引力ノ不足ヲ感スルモノニシテ此種ノ機關車ヲ増加スルハ蓋シ他日ノ運輸發展ニ備フル所以ニ非サルヘ

シ
近來歐米各國ニ於テハ機關車改良ノ競争特ニ盛ニシテ最近十年間ニ於テ著シク其面目ヲ改ムルニ至レリ而カモ今猶研究ヲ進メツ、アリト雖モ今日其一大革命ト見做スヘキハ過熱蒸氣ノ使用ニシテ此方法ヲ以テスレハ飽和蒸氣使用ノモノニ比シ水、石炭牽引力等ニ於テ二割乃至五割ノ利益アルコトハ宣言セラレ其創始以來僅カニ十年間ニシテ今日之ヲ使用セル機關車ノ數ハ既ニ約四千臺ニ上リ尙ホ益々増加スルノ傾向ヲ示シ終ニ普通機關車ヲ壓倒スルノ形勢アリ我鐵道ニ於テモ汽車運轉ノ條件ハ彼ト大差ナキヲ以テ此等新式機關車カ我鐵道ニ於テモ亦優秀ナル成績ヲ舉クヘシト認メ得ヘキナレトモ今ハ單ニ其原理ト彼地ニ於ケル成績ノ一般ヲ知ルニ止マリ此等カ我線路ノ狀況ト我從事員ノ能力等ニ鑑ミ果シテ斯クアルヘキヤ否ヤハ一ニ經驗ニ俟ツノ外アルヘカラス
機關車標準形式ノ制定ハ前述ノ如ク目下ノ急務ナリト雖モ如上ノ事實ハ其制定ニ先タチ豫メ過熱機關車研究ノ必要ヲ明示スルモノニシテ今ニ於テ宜シク同式ノ機關車數種ヲ備ヘ以テ精密ナル實驗ト相當期間ニ拂ル經驗ヲ積マシメ以テ標

準撰定ニ資スヘキナリ

本調査所ハ鐵道運輸經濟上ノ利益ヲ増進スルノ目的ヲ以テ先ツ外國ニ於ケル最近ノ實例ニ就キ調査ヲ遂ケ茲ニ將來ノ我鐵道ニ適應スヘキ形式ヲ審査設計セリ改良ノ最モ顯著ナル點ヲ前記過熱蒸氣ノ採用トス
抑モ蒸氣機關車ニ於テ蒸氣ヲ經濟的ニ使用セム事ハ何人モ希フ所ニシテ改良企畫ハ概ネ此目的ヲ達セムトスルニ外ナラス其根據ハ蒸氣ヲ成ルヘク膨脹セシメテ之ヲ使用スルニアリ利益ノ多寡モ亦自ラ其膨脹ノ度ニ伴フ然ルニ蒸氣カ膨脹スルニ從ヒ其壓力並ニ溫度ハ共ニ降下スルヲ以テ膨脹率大ナルニ從ヒ汽笛ヲ冷却スルコト隨テ多ク汽笛ノ冷却ハ益々蒸氣ノ冷却ヲ招キ斯クシテ蒸氣ノ一部ハ凝結シテ復水シ大ニ其容積ヲ減スルヲ以テ更ニ補ハレサルヘカラス從來ノ單式汽機ニアリテハ此ノ冷却作用殊ニ著シク從テ日常運轉ニ消費スヘキ蒸氣量ハ計算上必要ト認ムヘキ量ノ三割乃至五割ノ多キヲ示スコト實驗上確實ナリトス此損失ヲ免レンカ爲メ機關車ニ複式汽機ヲ使用セル場合亦尠シトセス此方法ニ據リテ汽笛冷却ニ起因スル如上ノ不利益ハ稍之ヲ補フヲ得ルト雖モ飽和蒸氣ヲ使

用スル以上ハ到底全然汽箱内ノ凝縮ヲ免レ得ヘキニアラス加之複式汽機ハ其裝置複雑ニシテ之カ保存上又比較的多大ノ費用ト勞力トヲ要スルヲ以テ今日右兩式機關車ノ優劣ハ尙技術上ノ疑問タルヲ免カレサル所タリ
輓近過熱蒸氣使用ノ途開ケテヨリ之ヲ機關車ニ應用スル幾多ノ研究ハ遂ケラレタル結果今日既ニ數種ノ設計現ハレ稍完成ノ域ニ達シタリト云フヘシ由來過熱式機關車ハ千八百九十八年獨乙ニ於テ創造セラレシ以來年々新案ノ數ヲ増シ今ヤ歐米ノ各鐵道ハ競フテ之ヲ採用スルニ至レリ蓋シ其利益ハ主トシテ飽和溫度以上ニ著シク熱セラレタル所謂過熱蒸氣カ餘分ノ熱ヲ含ンテ汽箱ニ入ルト蒸氣ノ爲メ傳熱力ヲ失フコト大ナルトノ故ヲ以テ前記ノ如キ汽箱内ニ於ケル凝水ヲシテ全ク消滅セシムルヲ得ルニ起因スルモノニシテ今日最モ成功シタル創作者ノ一人「シユミツ」博士ノ說ニ依レハ高過熱蒸氣使用ノ機關車ハ普通ノ單式機關車ニ比シ蒸氣量即チ水ニ於テ約四割燃料ニ於テ約二割半ノ利アリ從テ同量ノ燃料ニヨリ三割三分ノ力ヲ増發スルカ故ニ急行列車ニ於テハ計算上其牽引能力ニ約五割ノ増加ヲ見ルカ如シ又過熱式ヲ採用スルニ於テハ蒸氣ノ壓力ヲ一平方吋

四

ニ付約百八十封度以上ニ進ムルノ必要ナク隨テ汽罐ノ保存上大ニ得ル所アリトス高過熱蒸氣ノ應用ハ斯ノ如ク有利ナリトスルモ過熱ヲ行フノ困難並ニ其使用ヲ有効ナラシムルニ必要ナル機械的設備ヲナス等ノ困難至大ナルヲ以テ機械設計及製作ノ巧拙ハ其効率ニ影響ヲ及ホスハ自然ノ結果ニシテ目下ノ所之ニ比較的高價ヲ拂ハサルヘカラサルハ亦已ムヲ得サル所トス今日最モ完全ニ近シト認ムヘキモノヲ獨乙「シユミツ」式トナスハ斯界一般ノ輿論ナリト云フヘク獨乙政府ハ多年該機關車ノ結果宜シキニ鑑ミ曩ニ機關車標準形式四種ヲ撰定スルニ際シ悉ク同式ヲ採用セントスルニ至レリ我鐵道ニ於テモ新機關車ヲ計畫スルニハ高過熱式ヲ度外視スルヲ得サルノミナラス進テ其長所ヲ發揮セシムルニ努メサルヘカラス
汽罐中心ノ高サハ直接機關車ノ安定率ニ關係ヲ及ホシ從テ其高キニ過クルハ顛覆ノ悞ヲ増スヘシ之ニ反シ機關車ノ速度ト其運輸力ハ汽罐中心ノ高度ニヨリ直接ニ限定セラル、ヲ以テ安定ノ許ス限リ之カ昂上ニ努メサルヘカラサルナリ然ルニ列車ノ運轉スル狀況ハ時ト場所トニヨリ大ニ其趣ヲ異ニスルモノアルヲ以

五

テ一定ノ軌幅ニ對シ豫メ一定ノ重心高度ヲ算定スルコト困難ニシテ此問題タル
一ニ實際ノ成績ニヨリ之ヲ決定スルノ外ナカラン

六

本邦現在ノ機關車ニアリテハ汽罐中心ノ高サ約七呎二吋ヲ以テ最高トスルモ外
國ニ於ケル三呎六吋ノ狹軌鐵道ニアリテハ往々七呎六吋ニ達スルモノナキニア
ラス而カモ爲メニ危險ヲ來セシコトアルヲ聞カス以上ノ理由ニヨリ左ニ記述ス
ル新機關車ニハ右ノ高度ヲ七呎六吋ト定メタリ
機關車ノ形式並ニ重量等ハ其使用ノ目的ニヨリ自ラ異ナラサルヲ得ス第一急行
用機關車ニ在リテハ快速ヲ主眼トスルカ故ニ働輪徑ハ許ス限リ之ヲ大ニスルノ
必要アリ本邦在來ノモノニアリテハ五呎ヲ超ユルモノナキモ前述ノ如ク汽罐ノ
高サノ増加ト高過熱ノ採用トニ伴ヒ幾分ノ餘裕ヲ生シタルヲ利用シ之ヲ五呎六
吋ニ進ムルヲ得ヘク之ニ前部「ボギー」ヲ附スレハ平坦線ニ於テ優ニ一時間六十哩
ヲ駛走スル好個ノ急行機關車ヲ得ヘキナリ
機關車ノ牽引力ニ就テハ聯結働輪軸ノ數炭水槽ヲ載スルヤ否ヤ等其形狀ノ如何
ニ應シ根本的ノ差違アリト雖モ線路ノ負擔力ノ許ス範圍内ニ於テ各其豫定牽引

車數ニ應シ之ヲ定ムルヲ通例トス而シテ我鐵道在來ノ機關車ノ如キハ概ネ我法
規ノ許ス最大限即チ一軸十四英噸ニ相當スル線路負擔力ヲ充分ニ利用シタリト
云フヘカラス凡ソ機關車ノ牽引力ハ第一ニ聯結車輪ニ係ル所謂粘着重量ニヨリ
テ制限セラレ、モノナルカ故ニ一定ノ聯結軸數ヲ有スル機關車ニアリテハ各軸
カ成ルヘク大ナル重量ヲ以テ軌條ヲ壓スルヲ以テ此形式最高ノ牽引力ヲ發揮シ
得ヘキナリ故ニ運輸日進月歩ノ今日右ノ負擔力ノ極度迄之ヲ利用スル強力機關
車ヲ製造スルコト洵ニ鐵道經營上ノ急務ナリト云フヘシ依テ本案各機關車ハ事
情ノ許ス限リ聯結車軸一個ニ對シ十四噸ヲ負擔セシメ以テ牽引力増加ノ基礎ヲ
造レリ
汽罐ノ大サ即チ其蒸氣供給力ハ前述ノ見地ヨリ打算セル最大牽引力ト運轉速度
トニ適應セシメサルヘカラス兩者ノ關係ニ就テハ普國官有鐵道ニ於テ十年以上
ニ亘ル研究ヲ遂ケタルアリテ今日確定セリト見做スヲ得ヘシ蓋シ四輪聯結ノ急
行用機關車ニアリテハ粘着總重量二十八英噸ヲ出テス牽引力稍小ナルカ故ニ汽
罐ノ蒸氣供給力ニ幾分ノ餘裕ヲ有スレトモ大牽引力ヲ有スルモノニアリテハ汽

八
罐ノ蒸發力ハ歩調ヲ共ニセスシテ牽引力カ之カ爲メニ制セラル、場合ナシトセ
ス特ニ汽罐ノ蒸發力ニハ其傳熱面及ヒ火床面カ密接ナル關係ヲ有スルモノニシ
テ三者ノ間ニモ亦一定ノ比率アリ故ニ機關車ノ馬力ハ火床面ノ大サニ關係ヲ及
ホスモノト云フヘク我狹軌鐵道ニアリテハ充分ノ火床面ヲ得ルコト頗ル困難ナ
リトス即チ普通ノ構造ニヨレハ汽罐ノ下部ハ兩側車輪間ニ狹マルヲ以テ實際ニ
於テハ火床面ノ幅ハ約二呎一時ニ限定セラレ其長サニ於テモ石炭ノ投入ノ便ニ
鑑ミ亦約八呎六吋ニ制限セラレ結局其面積十八平方呎ヲ超エルヲ得ス而シテ我
鐵道ニ於テモ最大牽引力ヲ發揮セシメ特ニ比較的粗惡ナル石炭ヲ使用シテ作業
上ノ經濟ヲ圖ラントスルニハ右ニ二倍スル面積ヲ必要トス四輪聯結急行機關車
ニアリテハ尙舊式ヲ應用シ得ヘシト雖モ貨物牽曳用強大機關車ニアリテハ勢ヒ
之ヲ増大セサルヲ得ス蓋シ火床面ト牽引力トノ均勢ヲ得セシメ同時ニ重量ノ配
置ヲ宜クシ而カモ汽罐ノ中心ヲ過度ニ上昇セシメサラシムルハ實ニ機關車設計
上ノ難關ニシテ歐米ノ廣軌鐵道ニ於テスラ牽引力ノ増進ニ伴フテ火床面積ノ擴
張ヲ必要トシ火爐ヲ車輪ノ上ニ置キ其幅ヲ擴メテ之ニ當ルコト、ハナレリ此ノ

所謂廣火爐ハ漸次一般ニ行ハル、コト、ナリ我邦ニ於テモ舊日本鐵道ニ於テ早
ク既ニ一部ノ機關車ニ之ヲ採用シテ比較的良成績ヲ示シツツアリ仍テ本案ノ六
輪以上聯結機關車ニモ一部此式ヲ採用スルコト、セリ
次ニ汽笛ハ在來ノ機關車ニ比シ著シク其直徑ヲ増セリ是レ「シユミツド」氏等ノ學
說ト普國官有鐵道ノ經驗トニ依リタルモノニシテ過熱式使用ノ當初同シ汽笛ヲ
以テ普通蒸氣ニ劣ラサルノ力ヲ得ルニ却テ蒸氣ノ遮斷ヲ遅クスルノ必要ヲ感シ
タリ從テ其膨脹率ヲ減シ利益ヲ減却スルニ至リ過熱式ニ期待スル良成績ヲ收メ
得サルコト多カリキ近時其非ヲ覺リ汽笛ノ直徑ヲ大ニシテ以テ膨脹率ヲ増加シ
以テ豫定ノ利益ヲ得ルニ至リシト云フ依テ本設計ニモ此事實ヲ參照スルコト、
セリ
本案設計ハ普魯西官有鐵道ニ於テ細密ナル試驗ヲ得タル過熱機關車ノ形式圖ヲ
基礎トシ本邦ノ線路ノ狀態並ニ運輸ノ要求ニ適應スル様車輪徑並ニ其配置ヲ變
更シタルモノニシテ之ニ伴フテ汽罐汽笛等ニ多少ノ修正ヲ加ヘタリト雖モ大體
ニ於テハ該機關車ノ構造ト大差ナキモノトス從テ各車輪附帶ノ重量ノ如キモ精

密ナル計算ヲ爲サス單ニ上記形式圖ニ變更ノ點ヲ參酌シ大略ヲ推定シタルニ過
キス其結果トシテ茲ニ左ノ四個形式ヲ提出セムトス

一、四輪聯結八輪急行用「テンダー」機關車(第一圖)

二、六輪聯結八輪「タンク」機關車(第二圖)

三、六輪聯結八輪勾配線急行用「テンダー」機關車(第三圖)

四、八輪聯結十輪貨物列車用「テンダー」機關車(第四圖)

左ニ右各種機關車ノ豫定速度、牽引車數ヲ叙ス

一、四輪聯結「テンダー」機關車

三十五哩内外ノ速度ニ在リテハ百分一長勾配區間ヲ上ルニ尙ホ大形「ボギー」客車

五輛其重量ヲ三十三英噸ト見積ルヲ牽引シ得ヘシ

百分一以内ノ短勾配ヲ有スル區間ニ在リテハ大形「ボギー」車六車乃至八車ヲ牽引

シテ容易ニ四十哩乃至六十哩ノ速力ヲ發シ得ヘシ

二、六輪聯結「タンク」機關車

大形「ボギー」客車八輛ヲ牽引スルトキハ百分一長勾配區間ヲ上ルニ二十五哩ノ速

力ヲ持續シ得ヘク百分一以内ノ短勾配區間ニ在リテハ三十哩内外ノ速力ヲ以テ
同ク十車以上ヲ牽引シ得ヘシ

四十分一長勾配區間ヲ上ルニ速力十五哩以内ニアリテハ大形「ボギー」客車四輛ヲ

牽引シ得ヘク同一ノ補助機關車ヲ使用スルトキハ同シク五輛ヲ牽引シテ尙ホ三

十哩ノ速力ヲ發シ得ヘシ

貨車ヲ牽引スルニ百分一勾配區間ニ於テ四十車(一車十噸ト見積ル)四十分一勾配

區間ニ於テ十五車ヲ牽引セシメ十八哩ノ速力ヲ發シ得ヘシ

三、六輪聯結「テンダー」機關車

大形「ボギー」客車八輛ヲ牽引スルトキハ百分一長勾配區間ヲ上ルニ三十五哩ノ速

力ヲ持續シ得ヘシ

四十分一長勾配區間ヲ上ルニ大形「ボギー」客車四輛ヲ牽引スルトキハ二十五哩ノ

速力ヲ持續シ得ヘク同一ノ補助機關車ヲ使用シテ同シク五輛ヲ牽引スルトキハ

三十五哩ノ速力ヲ發シ得ヘシ

貨車ヲ牽引セシムルニ百分一勾配區間ニ於テ四十車、四十分一勾配區間ニ於テ十

五車ヲ牽引セシメ二十五哩ノ速力ヲ發シ得ヘシ
四、八輪聯結「テンダ」機關車

百分一勾配區間ニ於テ貨車五十五輛四十分一勾配區間ニ於テ同シク二十輛ヲ牽引セシメ共ニ二十哩ノ速力ヲ以テ運轉スルヲ得ヘシ
本案ノ機關車並ニ之ニ類似スル我鐵道所有機關車各個ノ牽引能力ハ之ヲ別紙ノ圖表第五圖及ヒ第三號表ニ示シ以テ比較ニ便セリ元來機關車ノ最大牽引力ハ運轉ノ狀況ニヨリ其粘着重量或ハ汽罐ノ蒸氣供給能力ニヨリテ定マルモノニシテ速度カ甚タ加ハラサル場合若クハ稍大ナル速度ヲ發揮スト雖モ其進行距離大ナラサル以上ハ其牽引車數ハ前者ニ準據スルモノニシテ速度カ或ル點ヲ超ユ而カモ之ヲ長時間持續セシムルニハ其牽引車數ハ後者ニ準據スルモノナリ即チ第五圖ニハ甲線乙線ヲ以テ各機關車ニ就テ兩者ノ場合ヲ區別スルコトヲセリ例ヘハ圖中新2-6-2形「タンク」機關車カ百分一ノ上ヲ勾配線ニ於テ貨車ヲ牽引スル場合ニハ其速度カ一時間十七哩未滿ノトキ又ハ之ヲ超過スルトキト雖モ其勾配區間短キトキハ其牽引車數ハ甲線ニ依ルヘク右以上ノ速度ニテ長勾配區間ニ運

轉ヲ持續セシメントスルモ蒸氣ノ供給ニ不足ヲ感スルヲ以テ到底不可能タルノミナラス一時發生シタル高速度モ之ヲ維持スルヲ得サルヘシ即チ右十七哩以上ノ速度ヲ以テ繼續運轉ヲナスニハ牽引車數ハ乙線ノ示ス如ク之ヲ改メサルヘカラス

其構造寸法等ノ差異ニ隨ヒ各機關車牽引車數變動ノ狀況ハ前記第五圖ノ示ス所ナリ而シテ粘着重量ニヨル牽引車數(甲線)ヨリ觀レハ過熱式機關車ハ類似ノ普通機關車ニ比シ著シキ差違アルヲ認メサレトモ蒸氣供給ノ上ヨリ見タル牽引車數(乙線)及ヒ機關車ノ發揮スル馬力ニ於テハ甚タ優レリト云フヘシ

今一例トシテ新過熱式2-6-2形「タンク」機關車ノ貨車牽引車數ト舊官線B6形六輪聯結八輪「タンク」機關車ノモノトヲ比較センニ百分一ノ勾配短距離ニ亘ル區ニ於テハ牽引車數ハ甲線ニ依ルモノニシテ即チ一時間十五哩ノ速度ヲ以テスレハ前者ハ四十二輛後者ハ四十輛トナリ双方著シキ差異ナシ
之ニ反シ右ノ勾配カ長距離繼續スルトモシカ兩者汽罐ノ蒸氣供給力ニ大ナル差異ヲ生シ前者カ依然トシテ四十二輛タルニ對シ後者ハ降テ二十二輛トナル此際

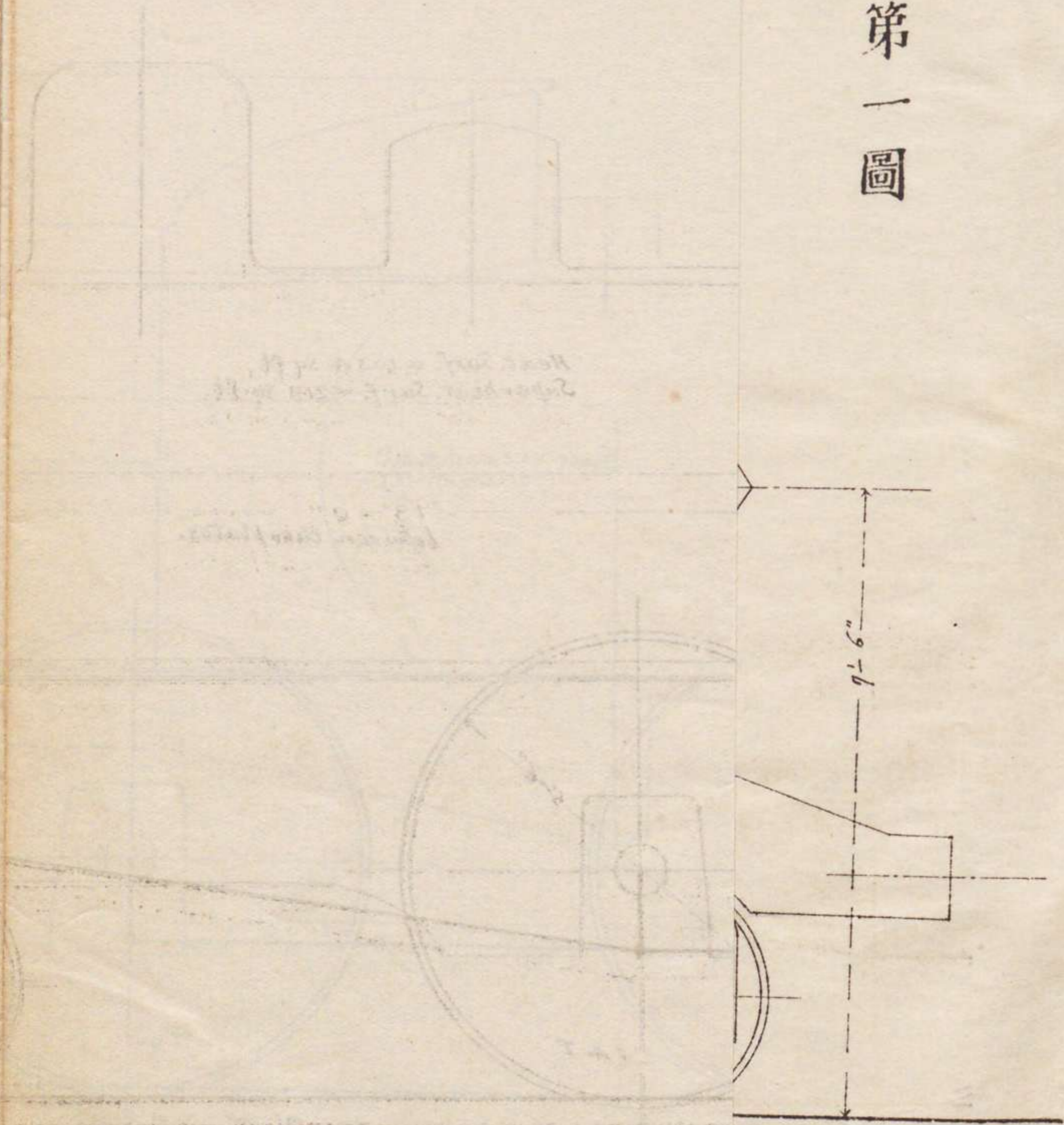
機關車ノ發生スル公示馬力ハ普通機關車ニアリテハ三百六十七過熱式ニアリテハ五百八十一トナル豫定ナリトス今一步ヲ進メテ三十五哩ノ速度ヲ以テ旅客列車ヲ牽曳セシムル場合B6形ニアリテハ二二輛過熱式ニアリテハ六二輛トナリ公示馬力ニ於テハ四百三十六ニ對スル八百八十二ニシテ計算上實ニ二倍強ノ數ヲ示スモノナリ

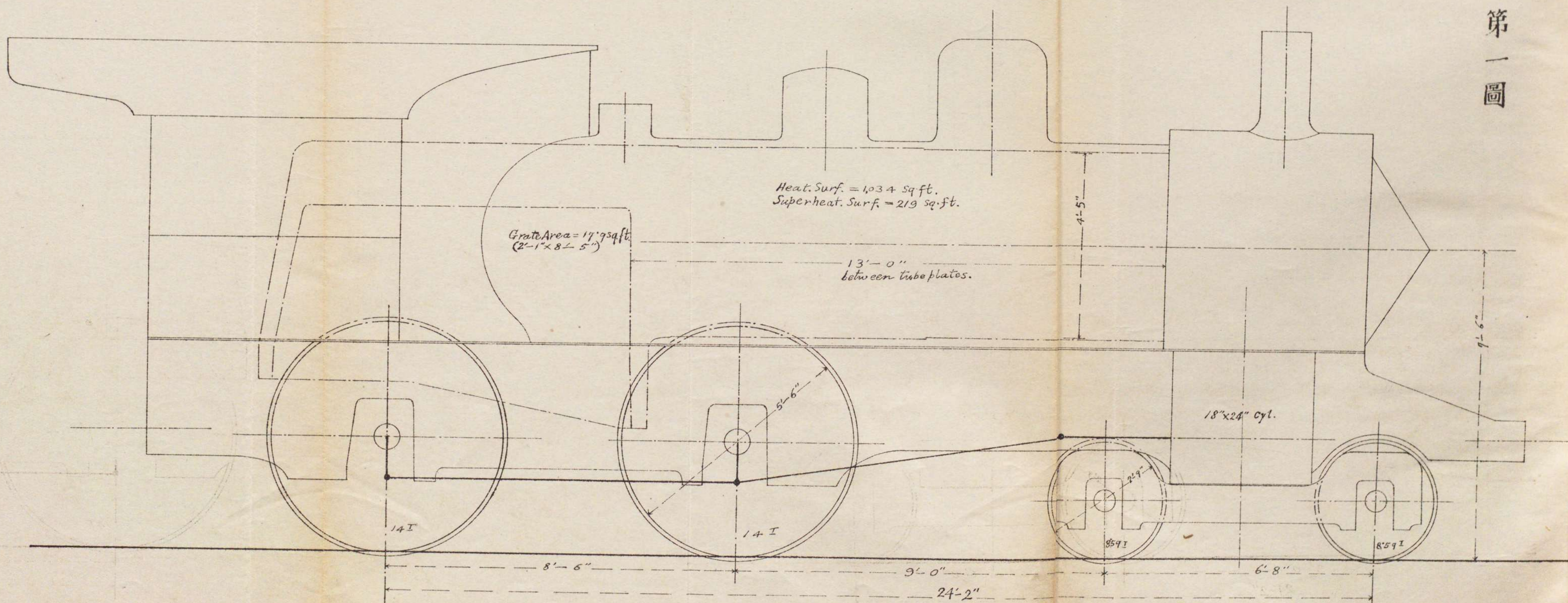
明治四十二年十月

技師 田中正平
同 塚本小四郎

此機關車ハ豫定ノ速度ニ於テハ三十五哩ノ速度ヲ以テ旅客列車ヲ牽曳セシムル場合B6形ニアリテハ二二輛過熱式ニアリテハ六二輛トナリ公示馬力ニ於テハ四百三十六ニ對スル八百八十二ニシテ計算上實ニ二倍強ノ數ヲ示スモノナリ

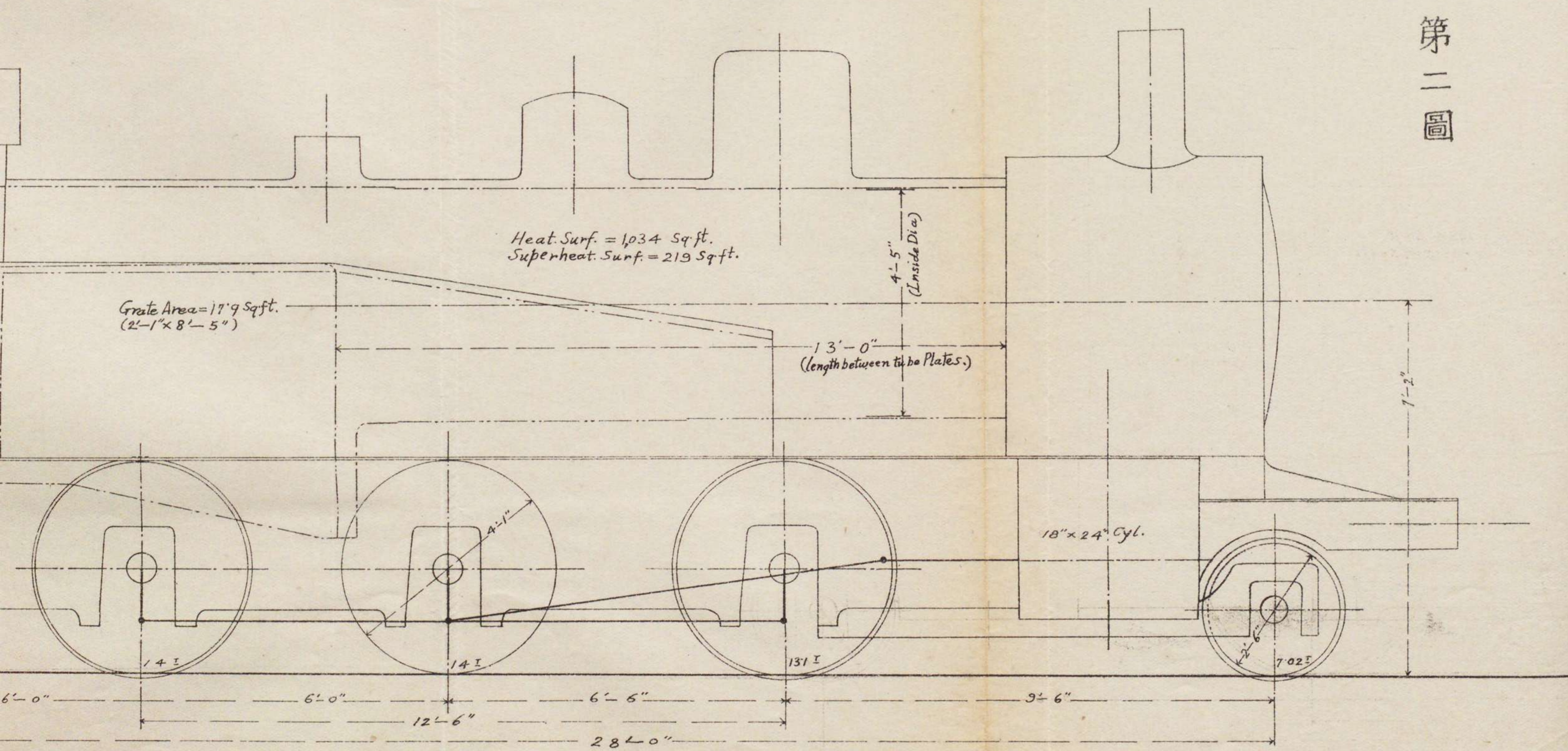
第一圖





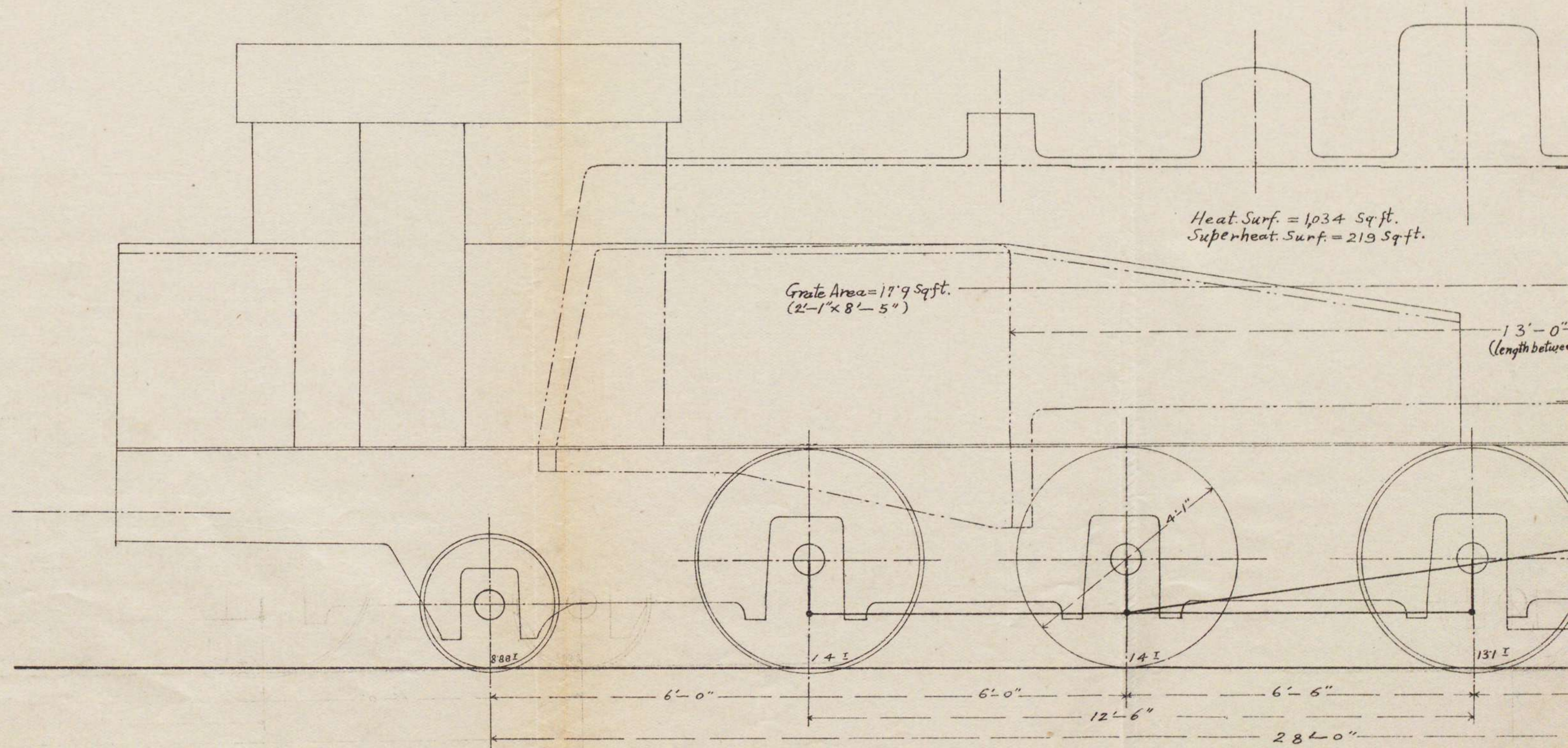
第一圖

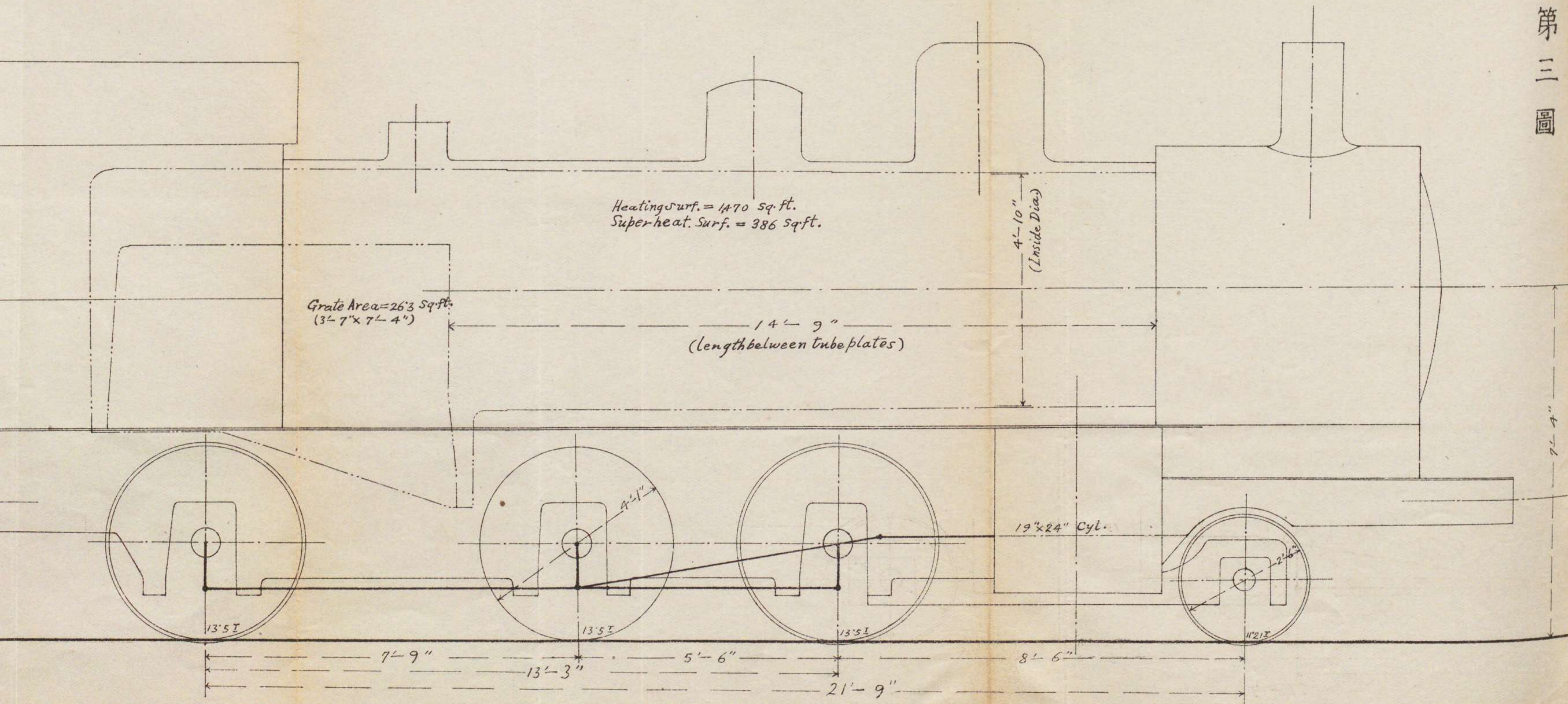
Vertical text on the right page, likely bleed-through from the reverse side of the paper.



第二圖

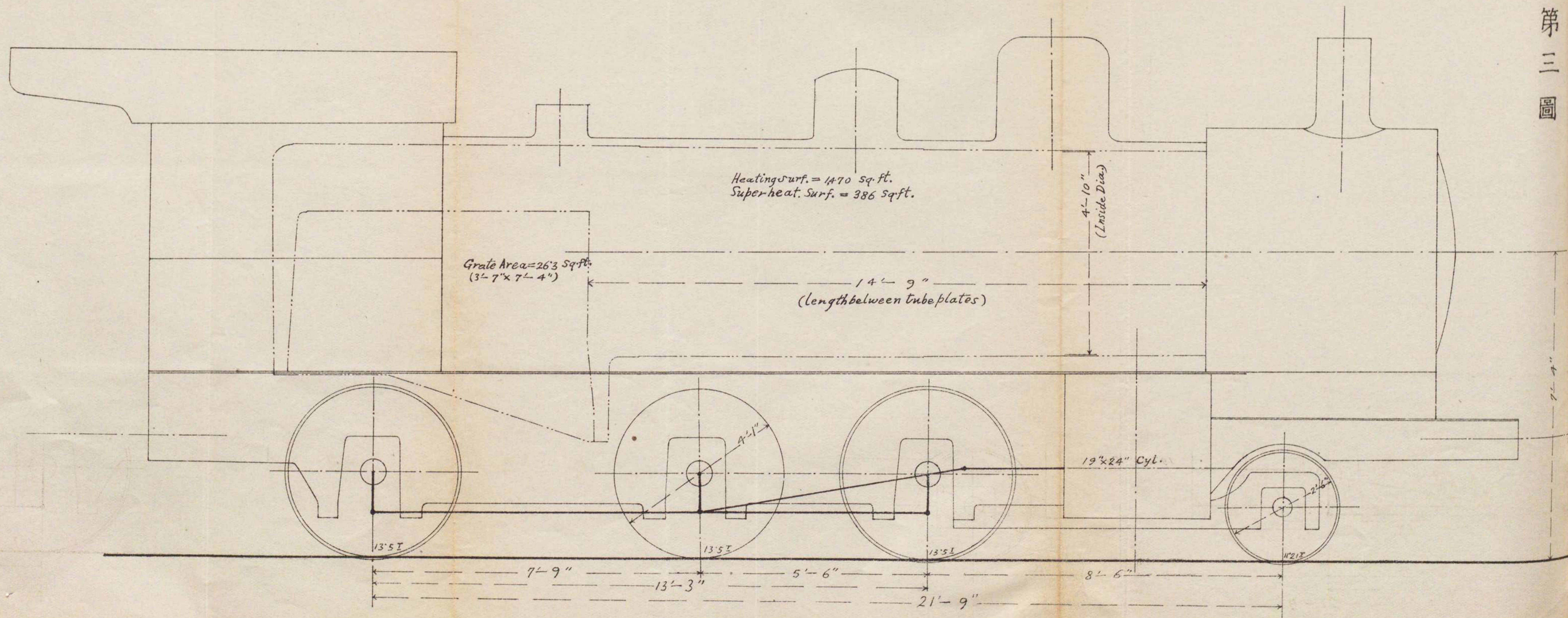
第一圖



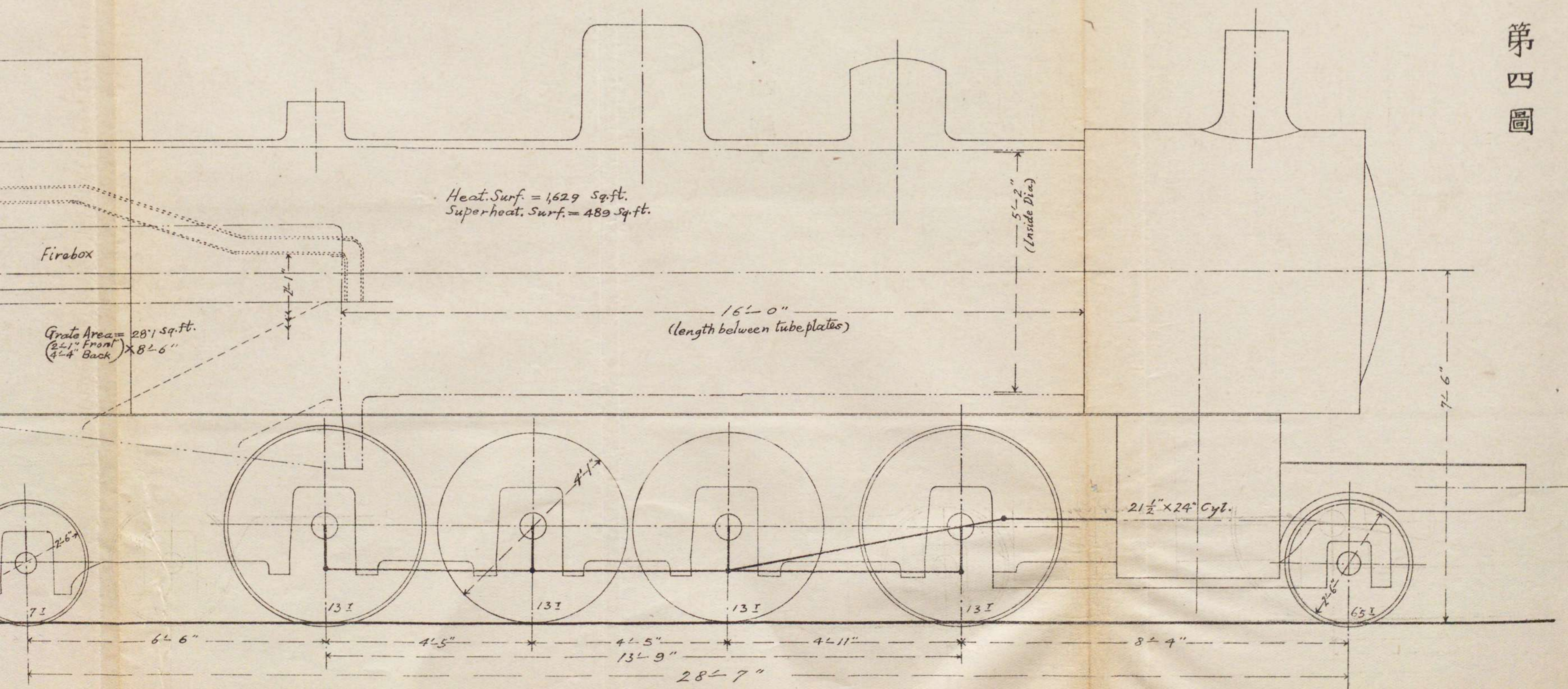


第三圖

第二圖

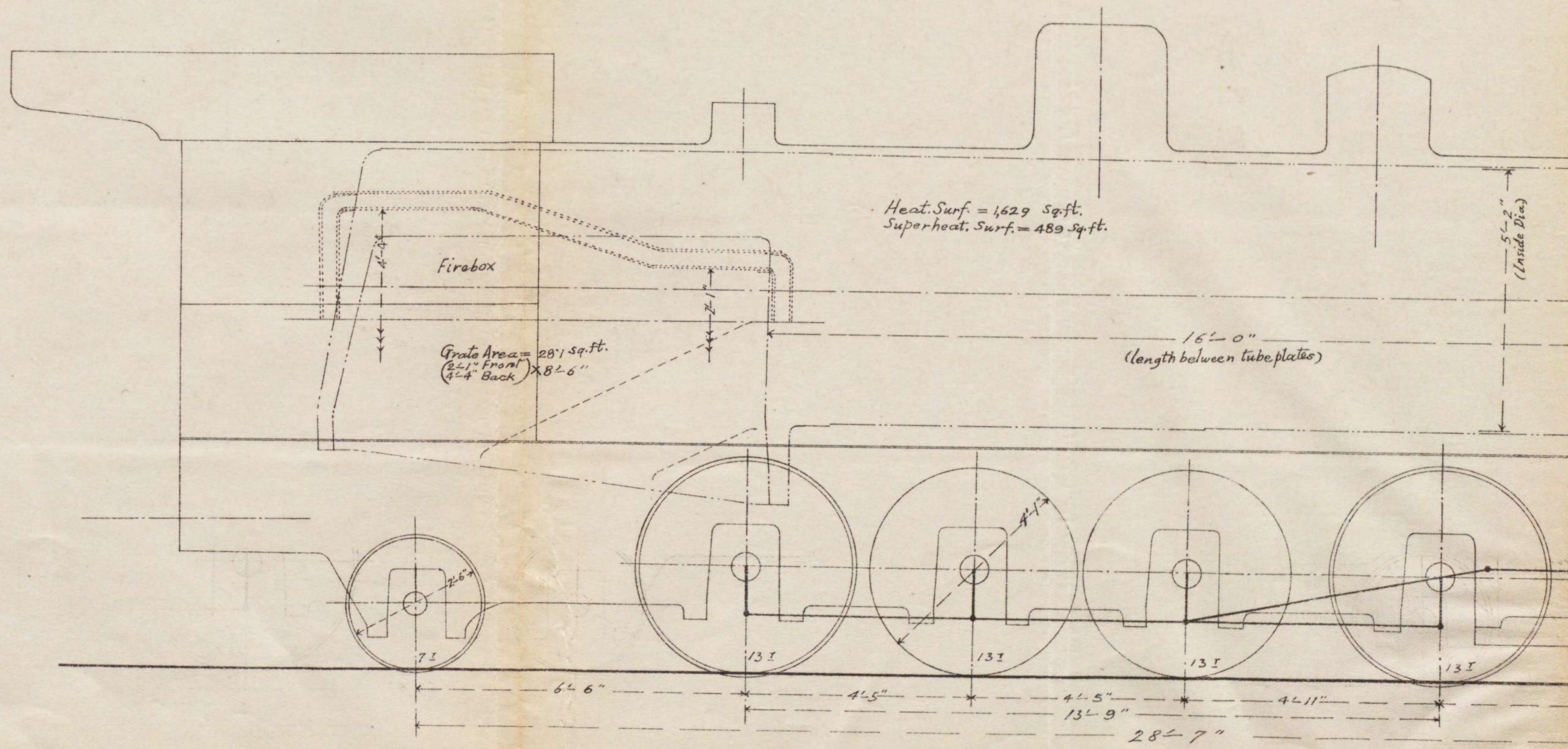


第三圖



第四圖

第二圖



機關車最大牽引車數圖表

甲ハ短距離ヲ牽引シ得ル車數
乙ハ長距離ニ亙リ牽引シ得ル車數

第五圖

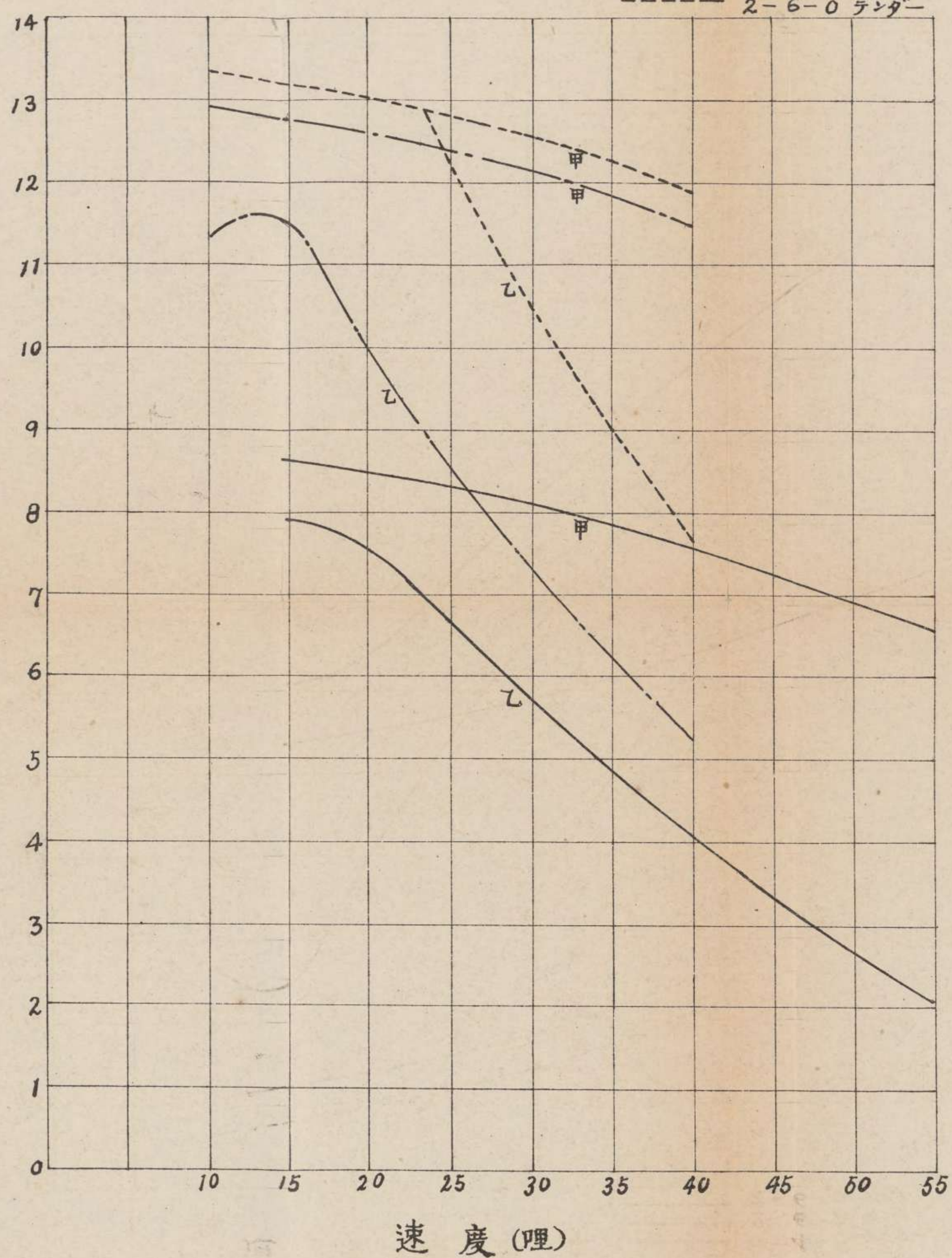
旅客列車

客車ハ每一車33噸トス
貨車ハ每一車10噸トス

過熱機關車

4-4-0 テンダー
2-6-2 タンク
2-6-0 テンダー

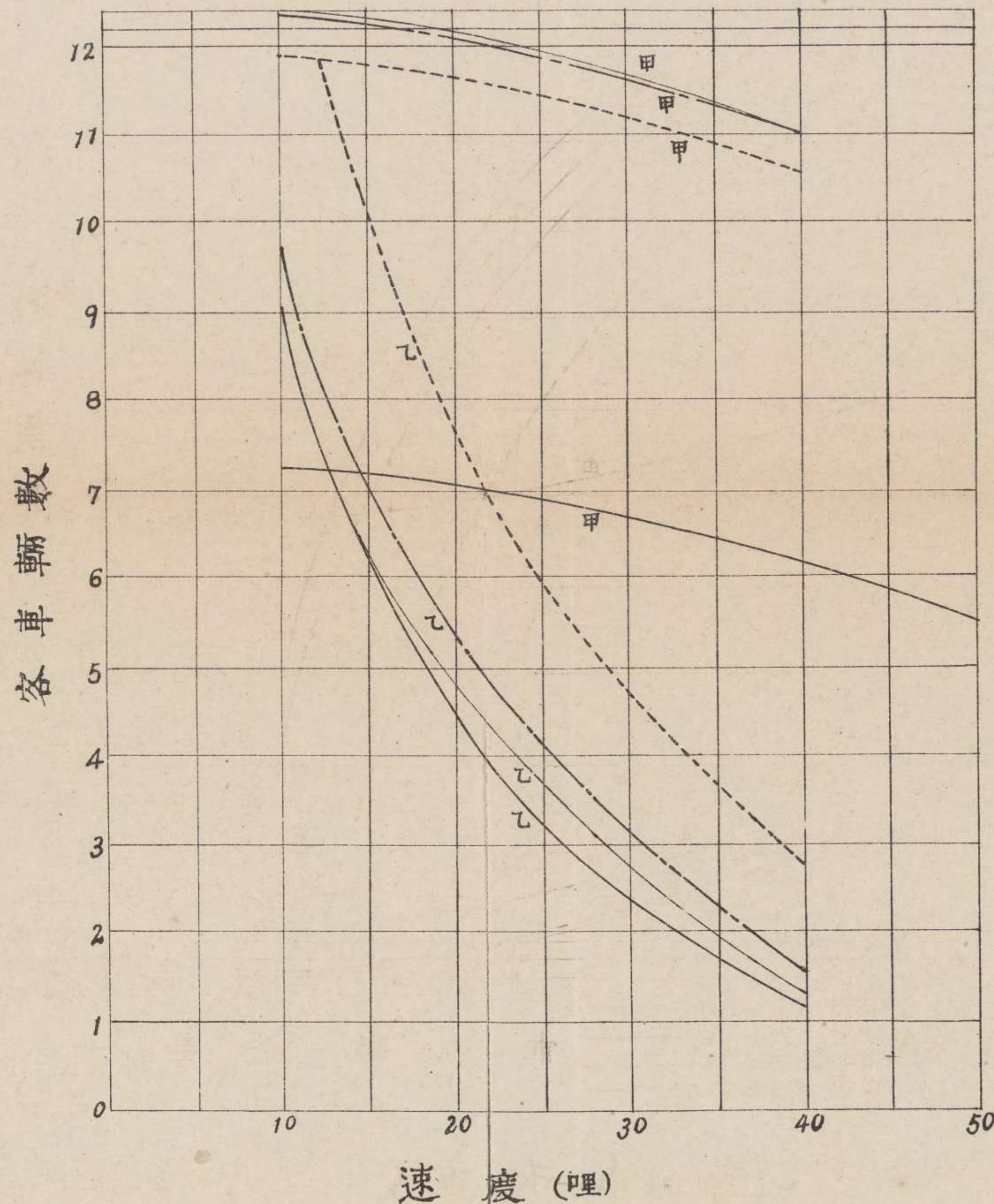
上段ハ百分ノ二勾配線ヲ上ルトキ
數輛車數



普通機關車

(I) B6 0-6-2 タンク
(II) D12 4-4-0 テンダー
(III) 0-6-2 テンダー
(IV) 2-6-2 タンク

數輛車數

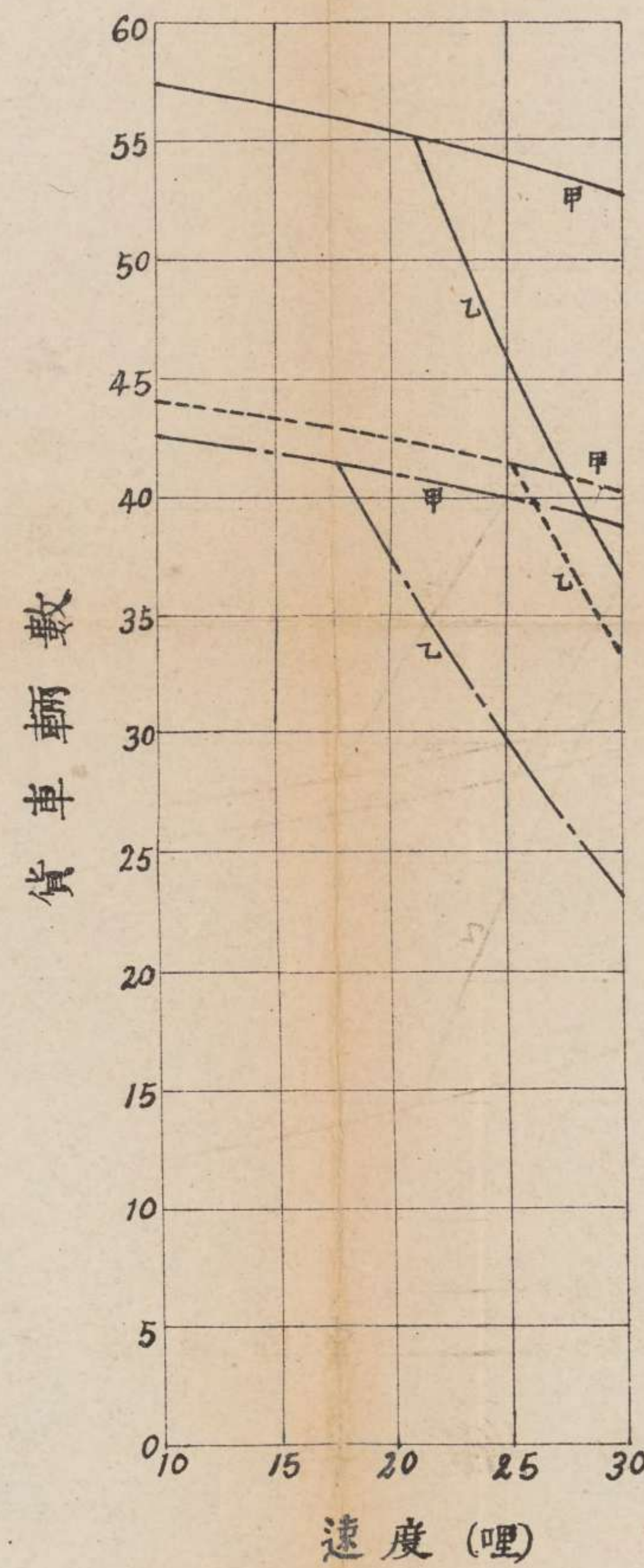


貨物列車

過熱機關車

2-6-2 タンク
2-6-0 テンダー
2-8-2 タンク

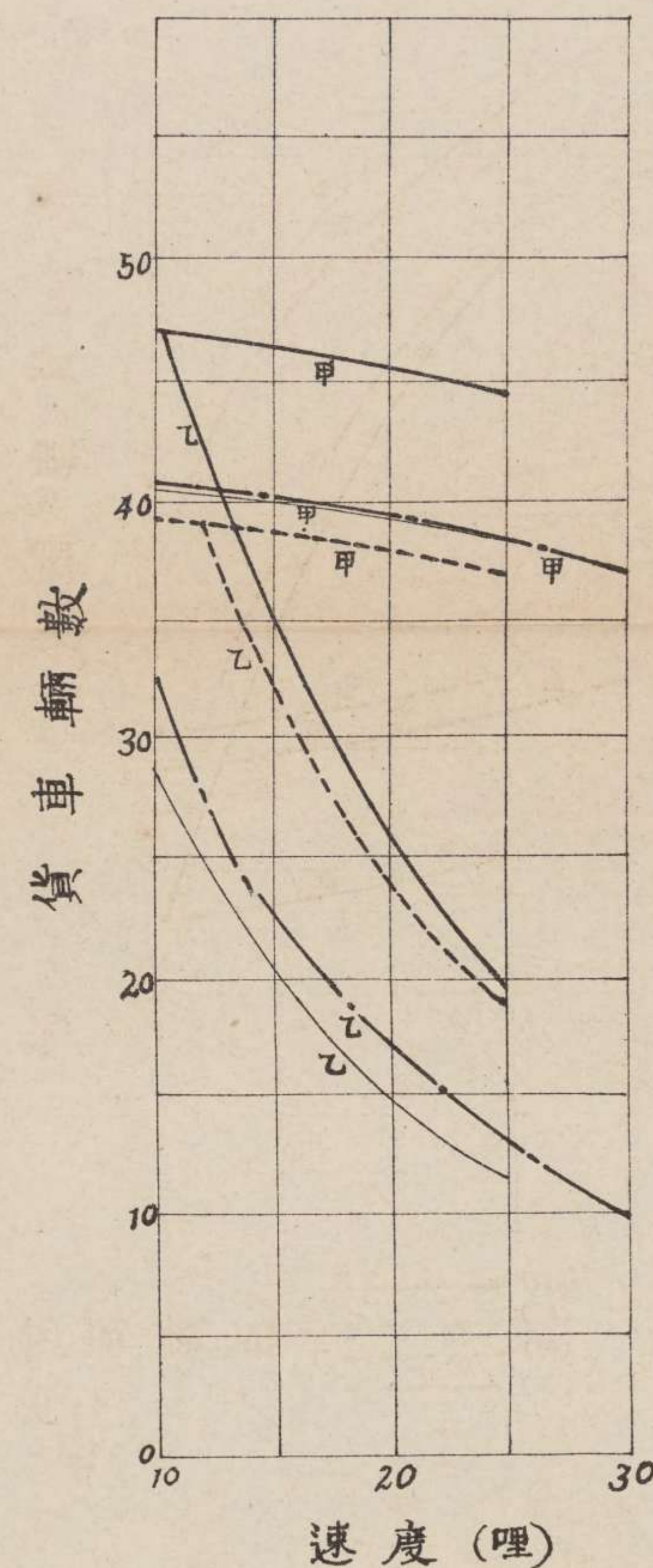
數輛車數



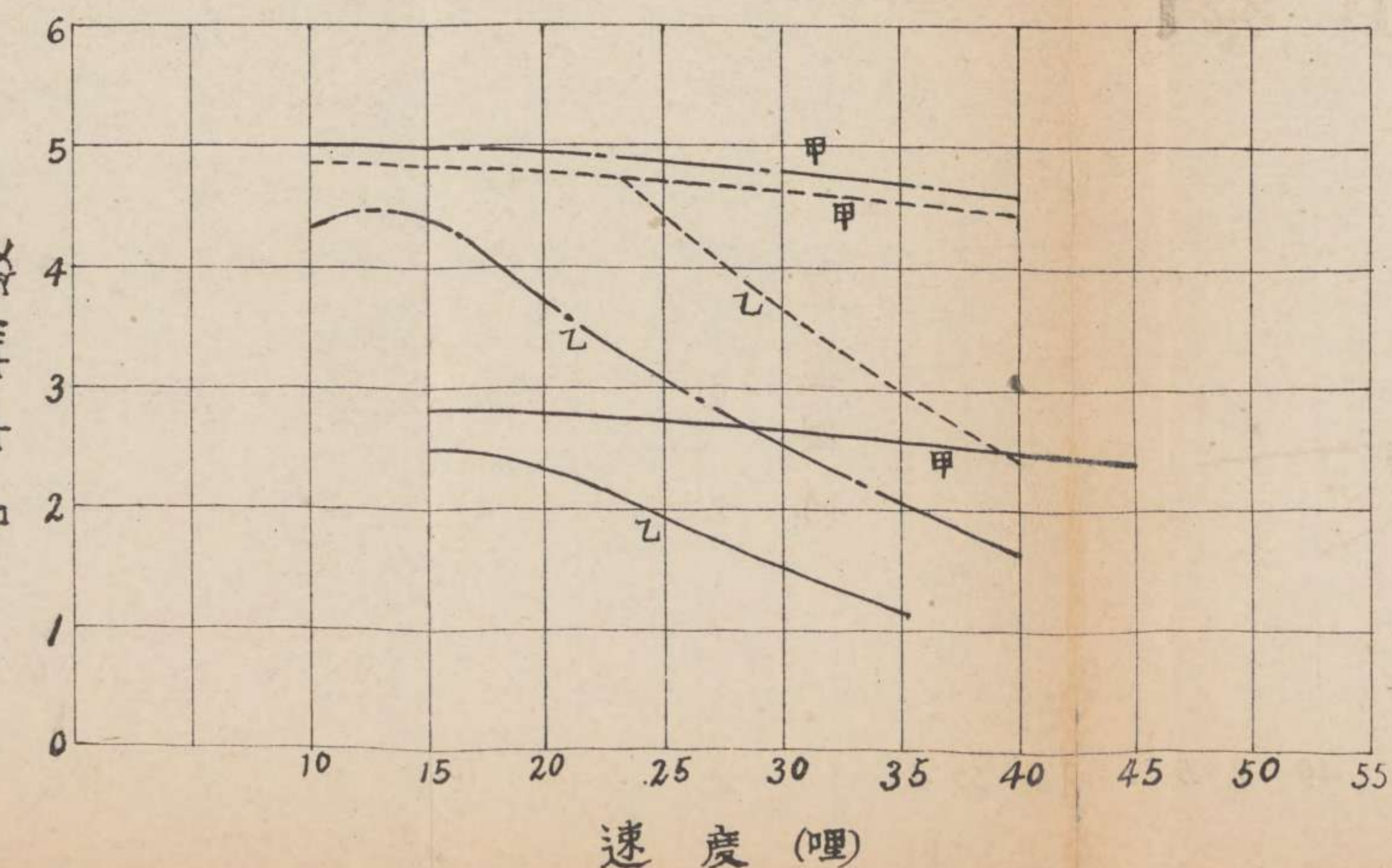
普通機關車

(I) B6 0-6-2 タンク
(II) 0-6-2 テンダー
(III) 2-6-2 タンク
(IV) 2-8-2 テンダー

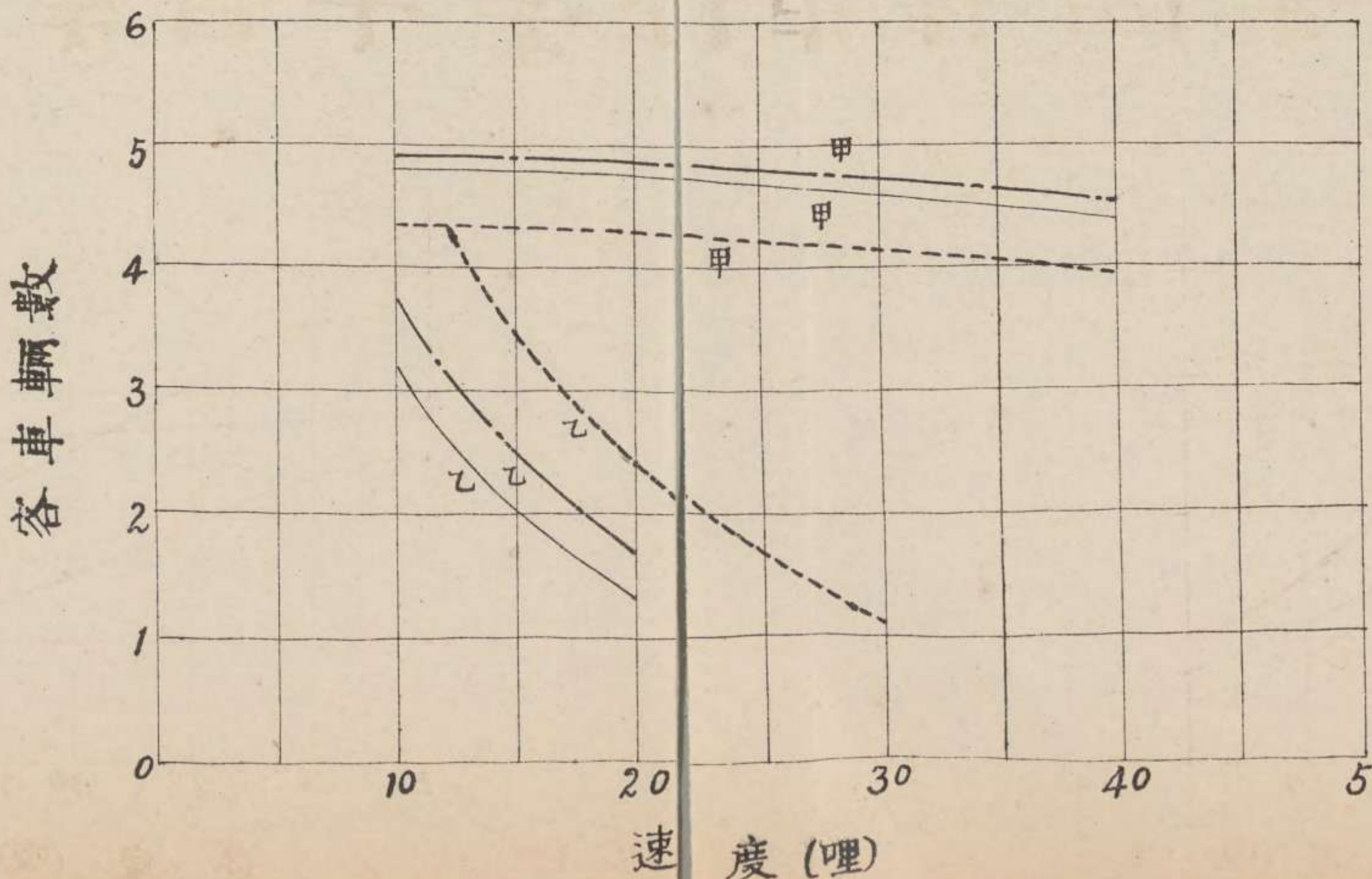
數輛車數



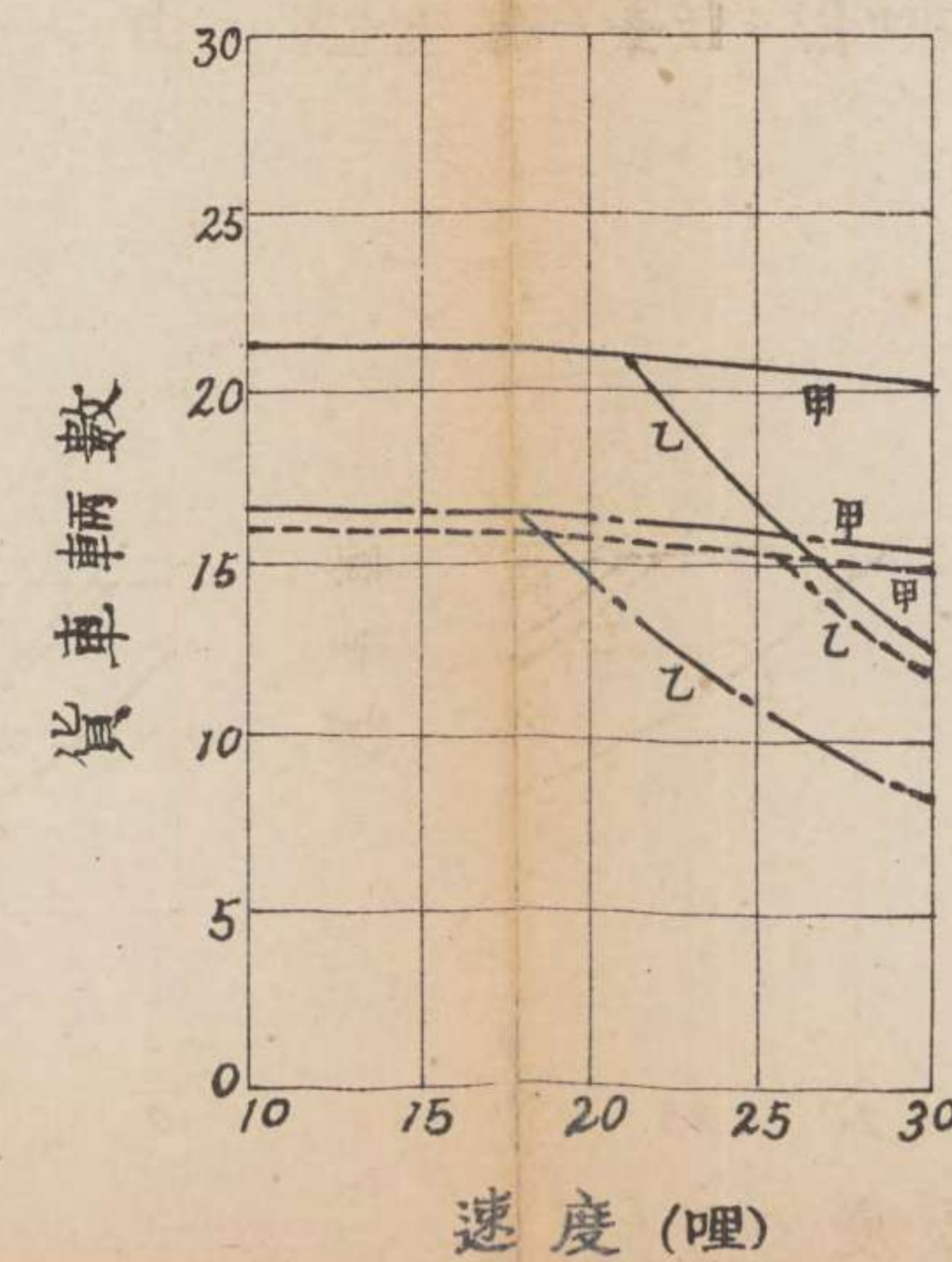
下段ハ四十分ノ二勾配線ヲ上ルトキ
數輛車數



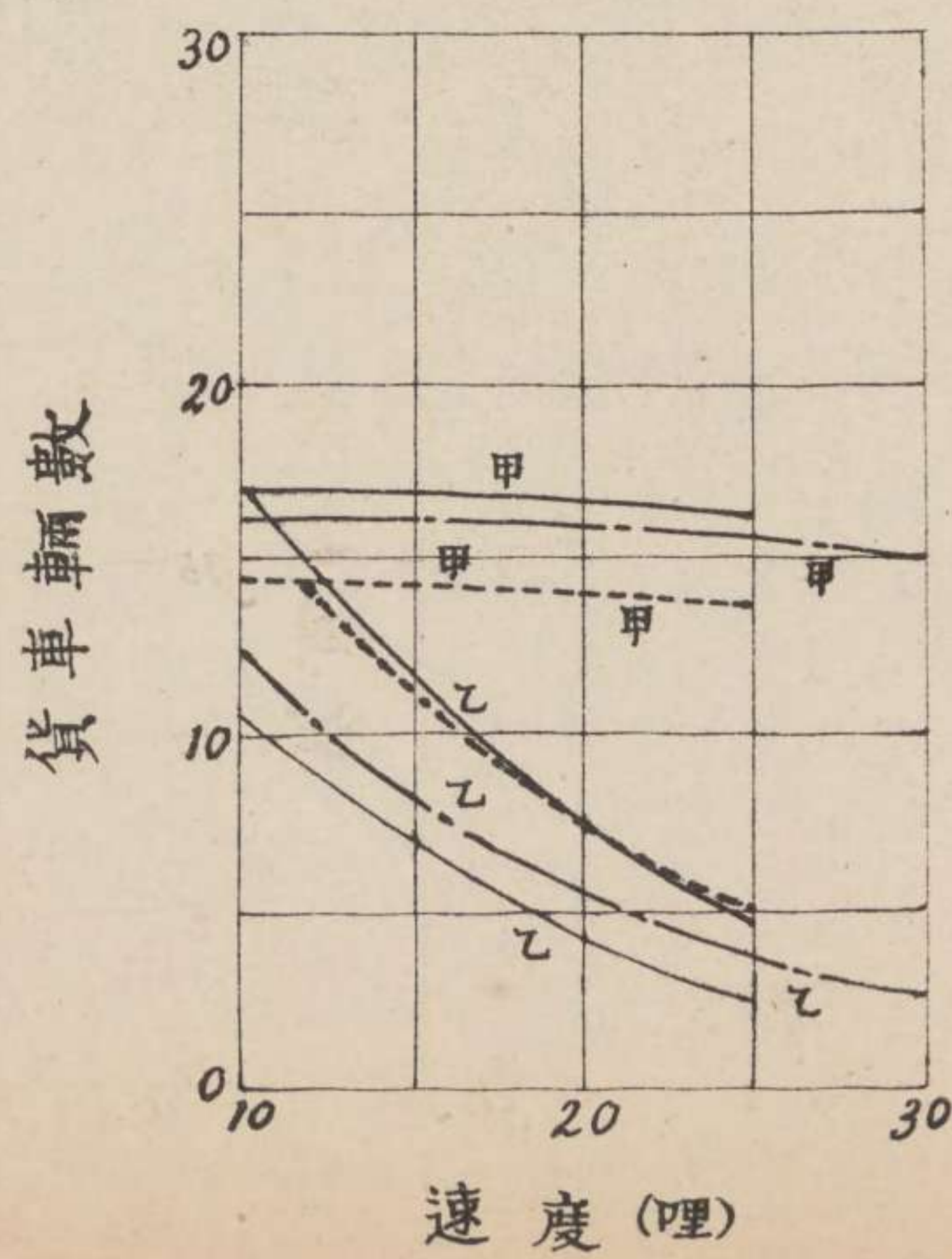
數輛車數



數輛車數



數輛車數



DATA AND FORMULÆ
FOR THE CALCULATION OF HAULING CAPACITY OF ENGINES.

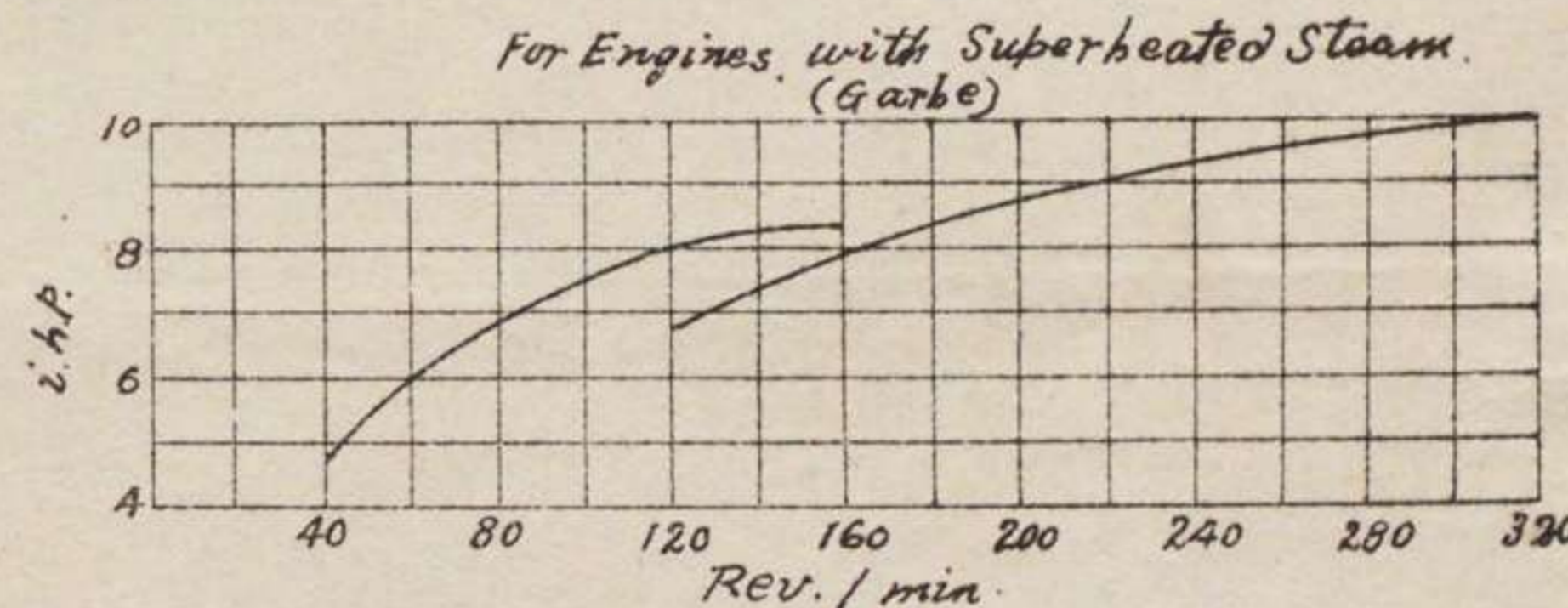
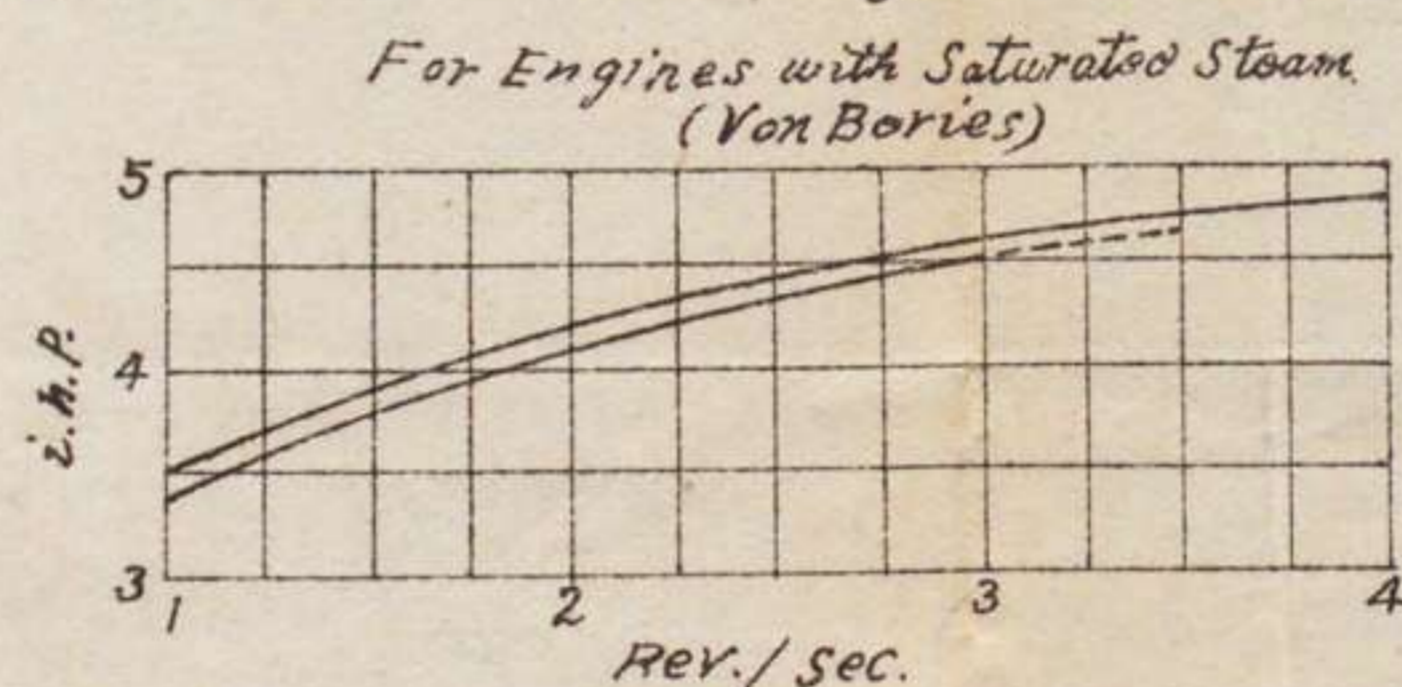
第一号表

Symbols.

- A = Adhesion weight at driving wheels, in lbs.
- D = Diameter of driving wheels, in ins.
- d = Diameter of cylinder, in ins.
- l = Stroke of cylinder, in ins.
- p = Boiler pressure, in lbs per sq. in.
- n = Number of revolutions of driving wheels per min.
- T = Theoretical tractive force, in lbs.
- T_A = Greatest tractive force, in lbs, due to adhesion weight.
- H = Total heating surface, in sq. ft.
- V = Speed in miles per hour.
- $i.h.p.$ = Maximum indicated horsepower per sq. meter of heating surface, in metric units.
- $I.H.P.$ = Maximum indicated horsepower of engine, under uninterrupted service.
- W = Weight of engine and tender, in tons.
- w = Average weight of each loaded car, in tons.
- N = Number of cars hauled.
- G = Grade in tangent.
- R_E = Resistance of engine and tender, in lbs.
- R = Total resistance of train, in lbs.
- T_B = Tractive force due to boiler power, in lbs.
- T_C = Tractive force at back of tender.

Assumptions.

- Mean pressure in cylinder, for calculation of $T = .75 p$
- Coefficient of friction between wheel and rail = $1/5$.
- Ratio of mean to maximum rotative force on drivers = $4/5$.
- $i.h.p.$ to be determined from the following diagrams.



Maximum brake horsepower of engine = 85 % of I.H.P.
 $w = 33$ tons for passenger carriage, and 10 tons for goods wagon.

Formulas.

$$T = \frac{.75 p d^2 l}{D}$$

$$T_A = \frac{1}{5} \times \frac{4}{5} \times A = \frac{A}{6.25}$$

$$I.H.P. = i.h.p. \times H \times .0929 \times .9863 = .0916 \times H \times i.h.p.$$

$$T_B = I.H.P. \times .85 \times \frac{60 \times 33000}{V \times 5280} = \frac{29.2 \times H \times i.h.p.}{V}$$

$$R = (W + Nw)K + (104.5 + 18.6 + 5.2N) \times 29 \left(\frac{V}{10}\right)^2 \quad \text{----- (Frank 1908)}$$

$$R_E = WK + .303 V^2$$

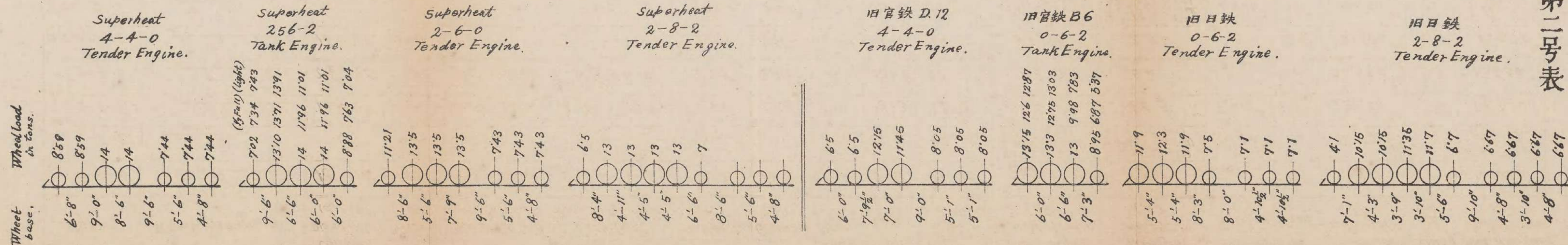
$$N = \frac{T_B \text{ (or } T_A) - [WK + .357 V^2]}{wK + .015 V^2}$$

$$K = 5.6 + .0824 \left(\frac{V}{10}\right)^2 + 2240 G$$

$$T_C = T_B \text{ (or } T_A) - R_E$$

LIVE LOAD SYSTEM.

第二号表



GENERAL DATA.

Type.	Wheel Arrangement.	Cylinder, Dia. x Stroke (d) x (L)	Boiler					Dia. of Driver (D)	Wheel-base.		Total Weight, Engine & Tender (W)	Adhesion Weight (A)	Tank Capacity.		Theoretical Tractive force (T)	Ratio of H/GA.	Max. Tractive force due to Adhesion (TA)
			Pressure (P)	Dia. at Frit. Shell X length of tubes	Fire-box, Breadth x Length	Heating Surface (H)	Graze Area (GA)		Rigid.	Total, Eng. & Tender			Water.	Coal.			
新 過 熱 式	4-4-0	18" x 24"	180 ^{lbs}	4'-5" x 13'-0"	2'-1" x 8'-5"	1,034 ^{sq}	17'9"	5'-6"	8'-6"	43'-10"	67.5 ^T	28 ^T	2,000 ^g	3 ^T	15,900 ^{lbs}	57.8	10,030 ^{lbs}
	2-6-2	"	"	"	"	"	"	4'-1"	12'-6"	28'-0"	50.4 ^T (Light) 52.6 ^T (1/2 Full) 57.0 ^T (Full)	35.9 ^T (Light) 37.6 ^T (1/2 Full) 41.1 ^T (Full)	1,140 ^g	15 ^T	21,420 ^{lbs}	"	12,860 ^{lbs} (Light) 15,500 ^{lbs} (1/2 Full) 14,730 ^{lbs} (Full)
	2-6-0	19" x 24"	"	4'-10" x 14'-9"	3'-7" x 7'-4"	1,470 ^{sq}	26'3"	"	13'-3"	41'-5"	74 ^T	40.5 ^T	2,000 ^g	3 ^T	23,900 ^{lbs}	56	14,500 ^{lbs}
	2-8-2	21 1/2" x 24"	"	5'-2" x 16'-0"	2'-1" Fire-box 4'-4" Bk. x 8'-6"	1,629 ^{sq}	28'1"	"	13'-9"	47'-3"	88 ^T	52 ^T	"	"	30,550 ^{lbs}	58	18,630 ^{lbs}
旧官鉄 D.12	16" x 24"	160 ^{lbs}	"	"	"	989 ^{sq}	16"	5'-0"	7'-0"	39'-11"	60.75 ^T	23.6 ^T	"	3 ^T	13,100 ^{lbs}	61.8	8,470 ^{lbs}
旧官鉄 B.6	"	"	"	"	"	999 ^{sq}	14'1"	4'-1"	12'-6"	19'-9"	39.1 ^T (Light) 42.2 ^T (1/2 Full) 48.4 ^T (Full)	33.7 ^T (Light) 35.3 ^T (1/2 Full) 39.4 ^T (Full)	1,716 ^g	1 ^T	16,050 ^{lbs}	71	12,100 ^{lbs} (Light) 12,650 ^{lbs} (1/2 Full) 14,130 ^{lbs} (Full)
旧日鉄 0-6-2	18 1/2" x 24"	"	"	"	"	1,490.5 ^{sq}	24"	4'-7"	10'-8"	36'-9"	64.89 ^T	36.09 ^T	2,000 ^g	3 ^T	19,100 ^{lbs}	62.1	12,930 ^{lbs}
旧日鉄 2-8-2	"	180 ^{lbs}	"	"	"	1,535 ^{sq}	30"	3'-8"	11'-10"	47'-5"	80.96 ^T	43.35 ^T	2,500 ^g	5 ^T	26,900 ^{lbs}	51	15,540 ^{lbs}

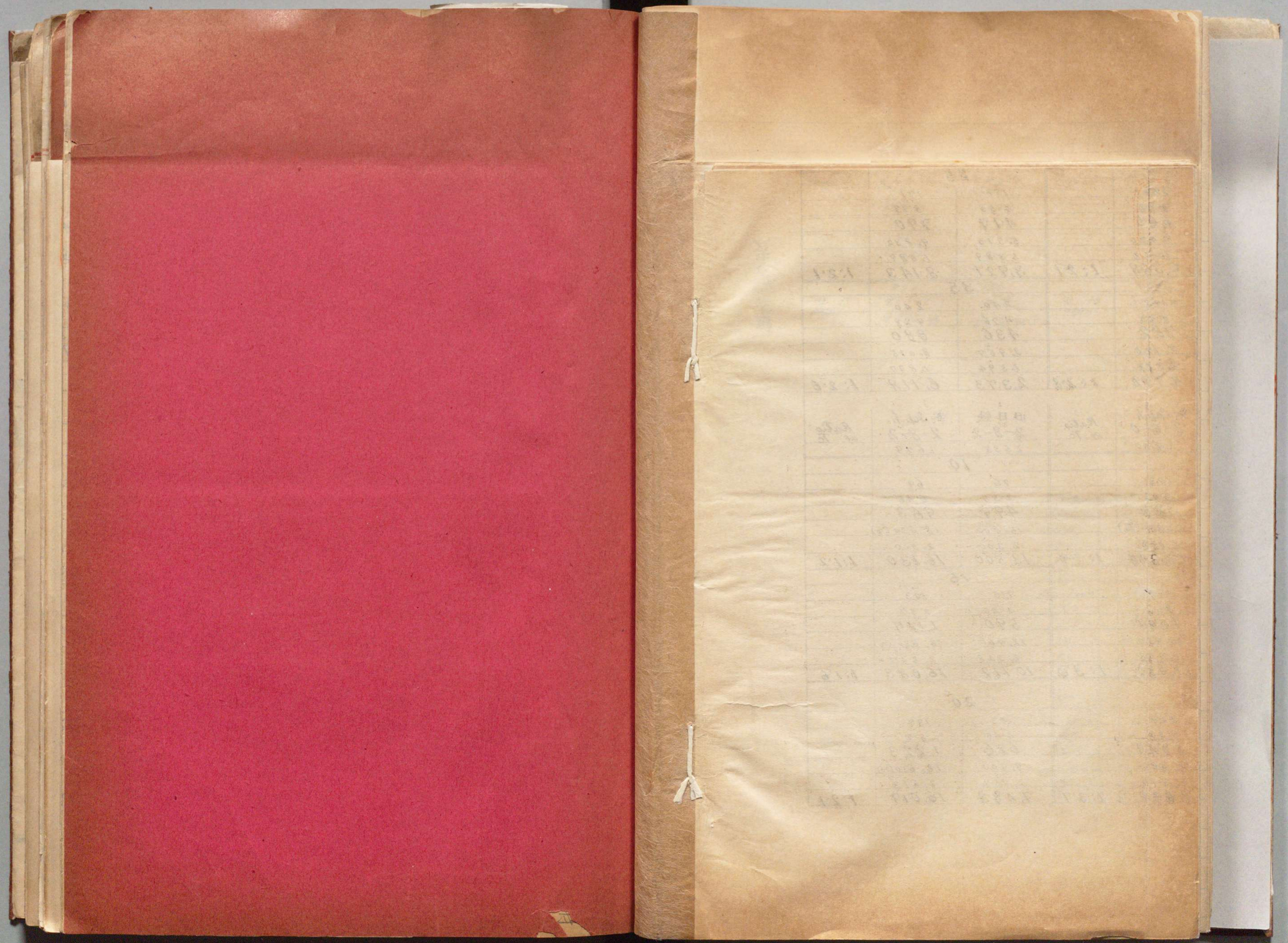
HAULING CAPACITY OF ENGINES.

Speed in miles/hr. (V)	Number of Passenger Cars (33T each)										Number of Covered Goods Wagons (10T each)					
	15 ^m	20 ^m	25 ^m	30 ^m	35 ^m	40 ^m	45 ^m	50 ^m	55 ^m	60 ^m	10 ^m	15 ^m	20 ^m	25 ^m	30 ^m	
On Level	4-4-0							18.2	14.5	11.5	9.3					
on Up-Grade of 1/100	新 過 熱 式	4-4-0	7.88 (8.6)	7.6 (8.5)	6.7 (8.3)	5.7 (8.1)	4.8 (7.8)	4.1 (7.6)	3.4 (7.1)	2.6 (6.9)	2.1 (6.6)					
	2-6-2	11.5 (12.8)	10.0 (12.6)	8.6 (12.4)	7.3 (12.2)	6.2 (11.9)	5.2 (11.5)					4.2.5	4.1.9	3.7.2 (4.1.1)	3.0.0 (4.0.2)	2.3 (3.8.9)
	2-6-0	13.2	13.1	12.3 (12.8)	10.5 (12.6)	9.0 (12.2)	7.7 (11.9)					4.3.9	4.3.3	4.2.5	4.1.5	3.3.2 (4.0.2)
	2-8-2											5.7.2	5.6.4	5.5.4	4.5.6 (5.4)	3.6.4 (5.2.7)
	旧官鉄 D.12	6.6 (7.2)	4.4 (7.0)	3.2 (6.9)	2.4 (6.7)	1.7 (6.4)	1.1 (6.2)									
	旧官鉄 B.6	7.0 (12.2)	5.3 (12.1)	4.1 (11.9)	3.2 (11.6)	2.2 (11.8)	1.6 (11.0)					3.2.6 (4.0.6)	2.2.5 (4.0.0)	1.6.8 (3.9.2)	1.3.0 (3.8.3)	9.8 (3.9.1)
	旧日鉄 0-6-2	10.1 (11.8)	7.6 (11.7)	6.0 (11.4)	4.7 (11.2)	3.6 (10.9)	2.8 (10.6)					3.9.3	3.1.9 (3.8.6)	2.4.4 (2.8.0)	1.8.5 (3.7.0)	
旧日鉄 2-8-2											4.7.0	3.5.1 (4.6.3)	2.5.9 (4.5.3)	1.9 (4.4.4)		
on Up-Grade of 1/40	新 過 熱 式	2-6-2	4.4 (5.0)	3.7 (5.0)	3.1 (4.9)	2.5 (4.8)	2.1 (4.7)	1.6 (4.6)				1.6.5	1.6.4	1.4.4 (1.6.2)	1.1.2 (1.5.9)	8.1 (1.5.6)
	2-6-0	4.8	4.8	4.4 (4.7)	3.7 (4.6)	3.0 (4.5)	2.4 (4.4)				1.6.0	1.5.9	1.5.7	1.5.4	1.1.7 (1.5.1)	
	2-8-2										2.1.3	2.1.1	2.0.9	1.6.6 (2.0.5)	1.2.5 (2.0.2)	
	旧官鉄 B.6	2.5 (4.9)	1.8 (4.8)									1.2.4 (1.6.2)	8.1 (1.6.0)	5.5 (1.5.9)	3.8 (1.5.6)	
旧日鉄 0-6-2	3.5 (4.3)	2.4 (4.3)	1.7 (4.2)	1.1 (4.1)							1.4.4	1.1.1 (1.4.2)	7.8 (1.4.1)	5.2 (1.3.8)		
旧日鉄 2-8-2											1.7.0	1.1.9 (1.6.8)	7.6 (1.6.7)	4.5 (1.5.3)		

第三号表

	旧官鉄 D. 12	新 Sup. h. 4-4-0	Ratio of Tc	旧官鉄 B. 6	新 Sup. h. 2-6-2	Ratio of Tc
H	989	1,034		1,000	1,034	
V	15			15		
Rev./min	84	77		103	103	
i.h.p.	3.85	4.65		4.00	6.13	
I.H.P	349	441		367	581	
Ta	7,900	9,350		7,800	12,320	
RE	1,778	1,968		1,256	1,548	
Tc	6,122	7,382	1:1.2	6,544	10,772	1:1.7
V	25			25		
Rev./min	140	127		171	171	
i.h.p.	4.35	7.02		4.55	8.13	
I.H.P	394	665		417	770	
Ta	5,020	8,470		5,310	9,830	
RE	1,920	2,112		1,389	1,687	
Tc	3,100	6,358	1:2.1	3,921	8,143	1:2.1
V	35			35		
Rev.	196	172		240	240	
i.h.p.	4.67	8.25		4.76	9.28	
I.H.P	423	782		436	880	
Ta	3,845	7,120		3,967	8,015	
RE	2,131	2,328		1,594	1,897	
Tc	1,714	4,792	1:2.8	2,373	6,118	1:2.6

	旧官鉄 B. 6	新 Sup. h. 2-6-0	Ratio of Tc	旧日鉄 2-8-2	新 Sup. h. 2-8-2	Ratio of Tc
H	1,000	1,470		1,535	1,629	
V	15			10		
Rev./min	103	103		76	69	
i.h.p.	4.00	6.13		3.55	6.45	
I.H.P	367	825		499	963	
Ta	7,800	14,500 (70)		15,800	18,630 (70)	
RE	1,256	2,152		2,300	2,500	
Tc	6,544	12,348	1:1.9	13,500	16,130	1:1.2
V	25			15		
Rev./min	171	171		115	103	
i.h.p.	4.55	8.13		4.20	7.57	
I.H.P	417	1,094		590	1,127	
Ta	5,310	13,950		12,460	18,630 (70)	
RE	1,389	2,298		2,348	2,547	
Tc	3,921	11,652	1:3.0	10,112	16,083	1:1.6
V	35			20		
Rev./min	240	240		153	137	
i.h.p.	4.76	9.28		4.45	8.2	
I.H.P	436	1,248		626	1,223	
Ta	3,967	11,360		9,900	18,630 (70)	
RE	1,594	2,516		2,112	2,613	
Tc	2,373	8,844	1:3.7	7,488	16,017	1:2.1



Column 1	Column 2	Column 3	Column 4
1000	1000	1000	1000
2000	2000	2000	2000
3000	3000	3000	3000
4000	4000	4000	4000
5000	5000	5000	5000
6000	6000	6000	6000
7000	7000	7000	7000
8000	8000	8000	8000
9000	9000	9000	9000
10000	10000	10000	10000
11000	11000	11000	11000
12000	12000	12000	12000
13000	13000	13000	13000
14000	14000	14000	14000
15000	15000	15000	15000
16000	16000	16000	16000
17000	17000	17000	17000
18000	18000	18000	18000
19000	19000	19000	19000
20000	20000	20000	20000

會社		甲		北海道		日		岩		山陽		西成		計		備考											
結果		買收價額		一、四三、七二、四		二、八七、三二、八		三、〇一、五、六、四〇		一、六三、二、五、六		七、三、八、二、一、四〇		四、一、三、七、六、八		七、四、三、九、四、九、八		一、〇、六、四、一、六、二		二、〇、〇、〇、〇		一、三、六、四、一、六、二		二、四、六、〇、一、九、三、四		同類ノ以テ協定	
																本類ノ業出ス		以テ買收ノ目ニ於									

昭和四年

鐵道及兼業買收價額表

會社名	買收日 推定建設費	益金二十倍	貯藏物品價格 公債換算額		計	買收價額
			甲	乙		
甲武	四三三、八三九 ^甲	一、三四三、七三〇 ^甲	一、三四八、三二四	一、三四八、三二四	一、三四八、三二四	一、三四八、三二四
北海道炭礦	一九二五、七三七	一〇、三九、七八〇	七五六、四九八	七五六、四九八	一、八七三、三三八	一、八七三、三三八
日本	五、四六八、七二四六	三、一五九、六四〇	〇	三、〇、一五九、六四〇	三、〇、一五九、六四〇	三、〇、一五九、六四〇
岩越	二、五九九、六四九	五九三、七二〇	六、〇七一	六、〇七一	一、六三三、二五六	一、六三三、二五六
山陽	鐵道部	七、三三八、二四四	七、三八一、一四〇	〇	七、三八一、一四〇	七、三八一、一四〇
	海漕部	四、三二七、六八	〇	〇	四、三二七、六八	四、三二七、六八
計	計	三、七八〇、三〇二	〇	〇	三、七八〇、三〇二	七、四九四、九〇八
	鐵道部	一、七五六、〇四四	三、七三、二八〇	〇	三、七三、二八〇	一、〇六四、一六二
西成	倉庫部	二〇〇、〇〇〇	〇	〇	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇
	計	一、九五六、〇四四	〇	〇	一、九五六、〇四四	一、三六四、二六二
計	二、三八四、五二七	二、四四五、五二〇	七、八三、五三九	二、四五六、三九八	二、四五六、三九八	二、四五六、三九八

營業成績ヨリ算出シタル結果

一、兼業係ル買收ノ日ニ於テ建設費、三年度下半期未現在額ヲ採ル買收價格モ亦同額ヲ以テ物定額、假定ス

二、益金二十倍力建設費ニ滿タル鐵道、建設費ノ平均額ヲ以テ物定額、假定ス

三、貯藏物品、三年度下半期未現在額、依リ、公債百圓ニ對シ、時價九十圓ノ割合ヲ以テ公債換算額ヲ算出ス

四、北海道炭礦ノ事業、之ヲ加算セズ

本表ニ掲グル買收價額、推定シテ買收ノ日ニ於テ、建設費ヲ基礎トシテ計算スルヲ以テ買收ノ日ニ於テ清算建設費ハ、自然多少ノ變動ヲ來ス、隨テ買收價額モ亦變動スルコトヲ免レズ

買收鍊道株式會社各債調

明治二十九年七月末日 現狀

會社名	債權現在額	起債額	起債年月	利率	利息起期	擔保物	實收額	泰面種類	記名及別名	備考
北海道炭礦	八九九〇.〇〇	二〇〇〇.〇〇	三十三年三月	天年五月	三十三年五月	泰面	一九四〇.三四	泰面種類	記名	
	二五〇〇.〇〇	二五〇〇.〇〇	天年九月	天年九月	天年九月	泰面	二五〇二.九六	泰面種類	記名	
	二六〇〇.〇〇	二六〇〇.〇〇	天年七月	天年七月	天年七月	泰面	二二六九.三〇	泰面種類	記名	
北海道	二五〇〇.〇〇	二五〇〇.〇〇	天年九月	天年九月	天年九月	泰面	二五〇二.九六	泰面種類	記名	
	二六〇〇.〇〇	二六〇〇.〇〇	天年七月	天年七月	天年七月	泰面	二二六九.三〇	泰面種類	記名	
	二〇〇〇.〇〇	二〇〇〇.〇〇	天年二月	天年二月	天年二月	泰面	二〇〇四.三五	泰面種類	記名	
北越	一八〇〇.〇〇	一八〇〇.〇〇	天年四月	天年四月	天年四月	泰面	一八〇二.四五	泰面種類	記名	
	二〇〇〇.〇〇	二〇〇〇.〇〇	天年三月	天年三月	天年三月	泰面	二〇〇四.三五	泰面種類	記名	
	二〇〇〇.〇〇	二〇〇〇.〇〇	天年二月	天年二月	天年二月	泰面	二〇〇四.三五	泰面種類	記名	
總武	六〇〇〇.〇〇	六〇〇〇.〇〇	天年六月	天年六月	天年六月	泰面	六〇〇〇.〇〇	泰面種類	無記名	
	八〇〇〇.〇〇	八〇〇〇.〇〇	天年五月	天年五月	天年五月	泰面	七六〇〇.〇〇	泰面種類	無記名	
	二〇〇〇.〇〇	二〇〇〇.〇〇	天年五月	天年五月	天年五月	泰面	一九〇〇.〇〇	泰面種類	無記名	
房総	三〇〇〇.〇〇	三〇〇〇.〇〇	天年五月	天年五月	天年五月	泰面	三〇〇〇.〇〇	泰面種類	無記名	
	四〇〇〇.〇〇	四〇〇〇.〇〇	天年五月	天年五月	天年五月	泰面	四〇〇〇.〇〇	泰面種類	無記名	
	四〇〇〇.〇〇	四〇〇〇.〇〇	天年五月	天年五月	天年五月	泰面	四〇〇〇.〇〇	泰面種類	無記名	
尾西	四七五〇.〇〇	四七五〇.〇〇	天年十月	天年十月	天年十月	泰面	四七五〇.〇〇	泰面種類	無記名	
	一〇〇〇.〇〇	一〇〇〇.〇〇	天年六月	天年六月	天年六月	泰面	九六二四.九〇	泰面種類	無記名	
	九〇〇〇.〇〇	九〇〇〇.〇〇	天年九月	天年九月	天年九月	泰面	九〇〇〇.〇〇	泰面種類	無記名	
阪鶴	九〇〇〇.〇〇	九〇〇〇.〇〇	天年九月	天年九月	天年九月	泰面	九〇〇〇.〇〇	泰面種類	無記名	
	九〇〇〇.〇〇	九〇〇〇.〇〇	天年九月	天年九月	天年九月	泰面	九〇〇〇.〇〇	泰面種類	無記名	
	九〇〇〇.〇〇	九〇〇〇.〇〇	天年九月	天年九月	天年九月	泰面	九〇〇〇.〇〇	泰面種類	無記名	
山陽	一五〇〇.〇〇	一五〇〇.〇〇	天年四月	天年四月	天年四月	泰面	一五〇〇.〇〇	泰面種類	無記名	
	一〇〇〇.〇〇	一〇〇〇.〇〇	天年五月	天年五月	天年五月	泰面	一〇〇〇.〇〇	泰面種類	無記名	
	一〇〇〇.〇〇	一〇〇〇.〇〇	天年五月	天年五月	天年五月	泰面	一〇〇〇.〇〇	泰面種類	無記名	
濱島	二〇〇〇.〇〇	二〇〇〇.〇〇	天年七月	天年七月	天年七月	泰面	二〇〇〇.〇〇	泰面種類	無記名	
	二〇〇〇.〇〇	二〇〇〇.〇〇	天年七月	天年七月	天年七月	泰面	二〇〇〇.〇〇	泰面種類	無記名	
	二〇〇〇.〇〇	二〇〇〇.〇〇	天年七月	天年七月	天年七月	泰面	二〇〇〇.〇〇	泰面種類	無記名	
九州	一五〇〇.〇〇	一五〇〇.〇〇	天年五月	天年五月	天年五月	泰面	一五〇〇.〇〇	泰面種類	無記名	
	一五〇〇.〇〇	一五〇〇.〇〇	天年五月	天年五月	天年五月	泰面	一五〇〇.〇〇	泰面種類	無記名	
	一五〇〇.〇〇	一五〇〇.〇〇	天年五月	天年五月	天年五月	泰面	一五〇〇.〇〇	泰面種類	無記名	
外債	四〇〇〇.〇〇	四〇〇〇.〇〇	天年五月	天年五月	天年五月	泰面	四〇〇〇.〇〇	泰面種類	無記名	
	一〇〇〇.〇〇	一〇〇〇.〇〇	天年五月	天年五月	天年五月	泰面	一〇〇〇.〇〇	泰面種類	無記名	
	一〇〇〇.〇〇	一〇〇〇.〇〇	天年五月	天年五月	天年五月	泰面	一〇〇〇.〇〇	泰面種類	無記名	
合計	二七,三三〇.〇〇	二七,三三〇.〇〇								
北海道炭礦	四〇〇〇.〇〇	四〇〇〇.〇〇	天年五月	天年五月	天年五月	泰面	四〇〇〇.〇〇	泰面種類	無記名	
	一〇〇〇.〇〇	一〇〇〇.〇〇	天年五月	天年五月	天年五月	泰面	一〇〇〇.〇〇	泰面種類	無記名	
	一〇〇〇.〇〇	一〇〇〇.〇〇	天年五月	天年五月	天年五月	泰面	一〇〇〇.〇〇	泰面種類	無記名	
關西	一〇〇〇.〇〇	一〇〇〇.〇〇	天年五月	天年五月	天年五月	泰面	一〇〇〇.〇〇	泰面種類	無記名	
	一〇〇〇.〇〇	一〇〇〇.〇〇	天年五月	天年五月	天年五月	泰面	一〇〇〇.〇〇	泰面種類	無記名	
	一〇〇〇.〇〇	一〇〇〇.〇〇	天年五月	天年五月	天年五月	泰面	一〇〇〇.〇〇	泰面種類	無記名	
合計	一〇,〇〇〇.〇〇	一〇,〇〇〇.〇〇								

北越
房総
尾西
阪鶴
山陽
濱島
九州
外債

買取鐵道株式會社借入金及支拂手形調
明治三十九年七月末日現狀

借入金		支拂手形		計	
借入額	借入年月日	支拂手形	金額	支拂手形	金額
會社	借入額	利	率	支拂手形	金額
社	借入年月日	率	率	支拂手形	金額
武	甲 十九年二月十九日	株式會社	日本興業銀行	支拂手形	金額
都	十九年五月廿四日	株式會社	京都高工銀行	支拂手形	金額
成	十九年四月廿四日	株式會社	日本生命保險株式會社	支拂手形	金額
鶴	十九年五月廿四日	株式會社	東京武吉郎	支拂手形	金額
島	分	分	分	支拂手形	金額
島	分	分	分	支拂手形	金額
島	分	分	分	支拂手形	金額
計	計	計	計	支拂手形	金額
計	共三一〇〇〇	計	一六〇〇〇	支拂手形	金額
會社	借入額	支拂手形	金額	支拂手形	金額
社	借入年月日	支拂手形	金額	支拂手形	金額
武	甲 十九年二月十九日	株式會社	日本興業銀行	支拂手形	金額
都	十九年五月廿四日	株式會社	京都高工銀行	支拂手形	金額
成	十九年四月廿四日	株式會社	日本生命保險株式會社	支拂手形	金額
鶴	十九年五月廿四日	株式會社	東京武吉郎	支拂手形	金額
島	分	分	分	支拂手形	金額
島	分	分	分	支拂手形	金額
島	分	分	分	支拂手形	金額
計	計	計	計	支拂手形	金額
計	共三一〇〇〇	計	一六〇〇〇	支拂手形	金額
會社	借入額	支拂手形	金額	支拂手形	金額
社	借入年月日	支拂手形	金額	支拂手形	金額
武	甲 十九年二月十九日	株式會社	日本興業銀行	支拂手形	金額
都	十九年五月廿四日	株式會社	京都高工銀行	支拂手形	金額
成	十九年四月廿四日	株式會社	日本生命保險株式會社	支拂手形	金額
鶴	十九年五月廿四日	株式會社	東京武吉郎	支拂手形	金額
島	分	分	分	支拂手形	金額
島	分	分	分	支拂手形	金額
島	分	分	分	支拂手形	金額
計	計	計	計	支拂手形	金額
計	共三一〇〇〇	計	一六〇〇〇	支拂手形	金額
會社	借入額	支拂手形	金額	支拂手形	金額
社	借入年月日	支拂手形	金額	支拂手形	金額
武	甲 十九年二月十九日	株式會社	日本興業銀行	支拂手形	金額
都	十九年五月廿四日	株式會社	京都高工銀行	支拂手形	金額
成	十九年四月廿四日	株式會社	日本生命保險株式會社	支拂手形	金額
鶴	十九年五月廿四日	株式會社	東京武吉郎	支拂手形	金額
島	分	分	分	支拂手形	金額
島	分	分	分	支拂手形	金額
島	分	分	分	支拂手形	金額
計	計	計	計	支拂手形	金額
計	共三一〇〇〇	計	一六〇〇〇	支拂手形	金額
會社	借入額	支拂手形	金額	支拂手形	金額
社	借入年月日	支拂手形	金額	支拂手形	金額
武	甲 十九年二月十九日	株式會社	日本興業銀行	支拂手形	金額
都	十九年五月廿四日	株式會社	京都高工銀行	支拂手形	金額
成	十九年四月廿四日	株式會社	日本生命保險株式會社	支拂手形	金額
鶴	十九年五月廿四日	株式會社	東京武吉郎	支拂手形	金額
島	分	分	分	支拂手形	金額
島	分	分	分	支拂手形	金額
島	分	分	分	支拂手形	金額
計	計	計	計	支拂手形	金額
計	共三一〇〇〇	計	一六〇〇〇	支拂手形	金額
會社	借入額	支拂手形	金額	支拂手形	金額
社	借入年月日	支拂手形	金額	支拂手形	金額
武	甲 十九年二月十九日	株式會社	日本興業銀行	支拂手形	金額
都	十九年五月廿四日	株式會社	京都高工銀行	支拂手形	金額
成	十九年四月廿四日	株式會社	日本生命保險株式會社	支拂手形	金額
鶴	十九年五月廿四日	株式會社	東京武吉郎	支拂手形	金額
島	分	分	分	支拂手形	金額
島	分	分	分	支拂手形	金額
島	分	分	分	支拂手形	金額
計	計	計	計	支拂手形	金額
計	共三一〇〇〇	計	一六〇〇〇	支拂手形	金額

支拂手形

明治三十九年七月末日現狀
買取鐵道株式會社借入金及支拂手形調